平成２５年度版　川を題材とした

総合的な学習の時間

活動事例集

平成２６年３月

岐阜県県土整備部河川課・砂防課
岐　阜　県　河　川　協　会
岐　阜　県　砂　防　協　会

は　じ　め　に

平成１２年度から始まった小中学校の「総合的な学習の時間」において、川を題材とした学習に取り組む小中学校に対し、岐阜県河川課及び砂防課では、平成１４年度から支援を行ってきました。

「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝物として、活かし、伝えるため、県では平成２５年度に「清流の国ぎふ」の基本理念となる「清流の国ぎふ憲章」を発表しました。

この様な背景の下、次の世代を担う子供たちに川への関心や防災意識を高めてもらうため、これまでの身近な川とふれ合う機会だけでなく、新たに地域の伝統的な防災施設や過去の水害、土砂災害についても学習する場を提供するなど、川を題材とした「総合的な学習の時間」に積極的に取り組んできました。

なお、この冊子は、平成２５年度に各土木事務所でお手伝いをさせていただいた活動事例を紹介させていただくものです。子供たちの環境学習、防災教育を進められる方々に参考としていただければ幸いです。

平成２６年３月

岐阜県県土整備部次長兼河川課長　　岩﨑　福久

砂防課長　　野原　克浩

目　　次

はじめに

目　　次

１　支援活動事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　１）これまでの支援活動の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
　２）平成２５年度支援活動一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・　５
　　瑞穂市立本田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
　　北方町立北方西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
　　山県市立高富小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　　岐阜市立長森南中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　　岐阜市立合渡小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
　　海津市立下多度小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　　水門川の川底学習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
　　養老町立上多度小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
　　大垣市立綾里小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
　　大垣市立宇留生小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
　　池田町立池田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　　大垣市立綾里小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
　　揖斐川町立谷汲中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
　　関市立武儀東小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
　　関市立上之保小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
　　関市立下有知中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
　　関市立武芸小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
　　関市立博愛小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
　　関市立瀬尻小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
　　関市立上之保中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１
　　関市立金竜小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
　　関市立富野小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
　　美濃市立牧谷小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
　　郡上市立牛道小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
　　郡上市立白鳥小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

郡上市立明宝小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７
郡上市立和良小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
七宗町立神渕小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
可児市立広見小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
御嵩町立上之郷小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１
川辺町立川辺西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４２
八百津町立潮見小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４３
美濃加茂市立太田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４４
坂祝町立坂祝小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４５
多治見市立池田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４６
多治見市立根本小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４７
多治見市立昭和小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９
多治見市立精華小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５０
多治見市立南姫小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５１
多治見市立滝呂小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５３
多治見市立市之倉小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５５
土岐市立鶴里小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５６
土岐市立肥田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８
瑞浪市立釜戸小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５９
瑞浪市立日吉小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６０
瑞浪市立瑞浪小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６１
瑞浪市立土岐小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３
名古屋市立稲西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６４
恵那市立中野方小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６５
恵那市立岩邑小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６６
下呂市立宮田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６７
下呂市立上原小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６８
下呂市立小坂小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６９
下呂市立金山小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７０
下呂市立萩原小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７１
下呂市立菅田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７２
下呂市立尾崎小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７３
高山市立宮小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７４
高山市立南小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５
高山市生活環境課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
飛騨市立古川小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７７

飛騨市立古川西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７８

２　巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８０

３　支援窓口一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９４

支　援　活　動　事　例

１)これまでの支援活動の経緯

岐阜県では、次代を担う子供たちに川を題材として身近な環境を体感してもらう、また、私達の暮らしを守る川の役割を知ってもらうことによって、未来の地球環境や水害軽減のための取り組みのあり方を考えるパートナーを育もうと、平成１４年度より、川を題材とした「総合的な学習の時間」に取り組まれている学校への支援を積極的に行ってきました。

平成１３年度

岐阜県内で河川や水辺を利用した自然学習を実践している代表校の先生や関係市町村役場職員、有識者、河川管理者等で「川を利用した自然学習懇談会～教育関係者と河川管理者の実務担当者懇談会～」を開催し、自然学習の結果報告や今後の教育連携のあり方について意見交換し、課題や問題点をまとめ、今後の自然学習を広める方策を検討しました。

平成１４年度

学校への支援活動は、８建設事務所、１６市町村、小中学校１９校、２０学年、実施人数 1,000 余名、実施回数４４回の支援を行いました。また、８月には指導者のための河川水質調査研修会、３月には「ぎふ発子供たちによる川のフォーラム２００３～これでわたしも川博士～」を開催しました。

平成１５年度

学校への支援活動は、１０建設事務所、１７市町村、小学校２２校、２３学年、実施人数 1,110 名、実施回数４８回の支援を行いました。また、７月には県主催の河川環境メッセにおいて、子供たちの日頃の川に関する取り組みについてのパネル展示や、関連イベントとして、「川の自然観察会」を行いました。

平成１６年度

学校への支援活動は、１０建設事務所、１７市町、小中学校１８校、２６学年、実施人数約 1,700 名、実施回数３５回の支援を行いました。また、７月には県主催の河川環境メッセにおいて、子供たちの日頃の川に関する取り組みについてのパネル展示を行いました。

平成１７年度

学校への支援活動は、１１建設事務所、１７市町、小中学校２２校、２７学年、実施人数約 1,680 名、実施回数３５回の支援を行いました。また、７月には県主催の河川環境メッセにおいて、子供たちの日頃の川に関する取り組みについてのパネル展示や、環境学習を実施している小学校による学習発表会を行いました。

平成１８年度

学校への支援活動は、１０土木事務所、１８市町、小中学校３１校、３３学年、実施人数約 2,050 名、実施回数３９回の支援を行いました。また、７月には県主催の河川環境メッセにおいて、子供たちの日頃の川に関する取り組みについてのパネル展示や、環境学習を実施している小学校による学習発表会を行いました。

※　砂防課所管分も合算。

【内訳】河川課所管分　17 市町、小中学校 27 校、29 学年、実施人数約 1,960 名、実施回数 35 回
砂防課所管分　4 市町、小中学校４校、４学年、実施人数約 90 名、実施回数 4 回

平成１９年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、１９市町、小中学校４０校、４６学年、実施人数約 2,460 名、実施回数５４回の支援を行いました。また、８月～１１月には県主催の自然共生パネル展において、子供たちの日頃の川に関する取り組みについてのパネル展示を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分 6 市町、小中学校 9 校、10 学年、実施人数約 860 名、実施回数 15 回
河川課所管分 15 市町、小中学校 27 校、32 学年、実施人数約 1,490 名、実施回数 34 回
砂防課所管分　4 市町、小中学校４校、　4 学年、実施人数約 110 名、実施回数５回

平成２０年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、２１市町、小中学校３９校、４１学年、実施人数約 2,650 名、実施回数４８回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川課砂防課合同分　4 市町、小中学校 4 校、 4 学年、実施人数約 620 名、実施回数 9 回
河川課所管分 15 市町、小中学校 28 校、30 学年、実施人数約 1,550 名、実施回数 32 回
砂防課所管分　6 市町、小中学校 7 校、 7 学年、実施人数約 300 名、実施回数 7 回

平成２１年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、２０市町、小中学校４６校、５１学年、実施人数約 2,940 名、実施回数５６回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分 5 市町、小中学校 8 校、10 学年、実施人数約 640 名、実施回数 14 回
河川課所管分 14 市町、小中学校 32 校、30 学年、実施人数約 2,020 名、実施回数 36 回
砂防課所管分　6 市町村、小中学校 6 校、 9 学年、実施人数約 290 名、実施回数 6 回

平成２２年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、１８市町、小中学校４４校、５１学年、実施人数約 2,790 名、実施回数５９回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分 3 市、小中学校 9 校、18 学年、実施人数約　230 名、実施回数 8 回
河川課所管分 15 市町、小中学校 32 校、30 学年、実施人数約 2,460 名、実施回数 47 回
砂防課所管分　4 市町、小中学校 4 校、 4 学年、実施人数約　110 名、実施回数 4 回

平成２３年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、１８市町、小中学校５３校、５３学年、実施人数約 3,340 名、実施回数６６回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分 3 市、小中学校 8 校、 8 学年、実施人数約　200 名、実施回数 8 回
河川課所管分 16 市町、小中学校 42 校、42 学年、実施人数約 3,080 名、実施回数 55 回
砂防課所管分　3 市町、小中学校 3 校、 3 学年、実施人数約　 60 名、実施回数 3 回

平成２４年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、２２市町、小中学校４５校、４７学年、実施人数約 3,170 名、実施回数５５回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分　2 市、小中学校 6 校、 6 学年、実施人数約　324 名、実施回数 6 回
河川課所管分　18 市町、小中学校 33 校、34 学年、実施人数約 2,640 名、実施回数 43 回
砂防課所管分　5 市町、小中学校 6 校、 7 学年、実施人数約 206 名、実施回数 6 回

平成２５年度

学校への支援活動は、１１土木事務所、２７市町、小中学校６１校、６９学年、実施人数約 4,000 名、実施回数７５回の支援を行いました。

※砂防課所管分も合算。

【内訳】河川砂防課合同分　4 市、小中学校 10 校、15 学年、実施人数約　440 名、実施回数 12 回
河川課所管分　24 市町、小中学校 46 校、49 学年、実施人数約 3,430 名、実施回数 58 回
砂防課所管分　4 市町、小中学校 5 校、 5 学年、実施人数約 130 名、実施回数 5 回

（参考）H25 支援校一覧

瑞穂市立 本田小学校	1 回	揖斐川町立 谷汲中学校	1 回	郡上市立 牛道小学校	1 回	多治見市立 池田小学校	1 回	瑞浪市立 瑞浪小学校	2 回	下呂市立 尾崎小学校	1 回
北方町立 北方西小学校	1 回	関市立 武儀東小学校	1 回	郡上市立 白鳥小学校	1 回	多治見市立 根本小学校	2 回	瑞浪市立 土岐小学校	1 回	高山市立 宮小学校	1 回
山県市立 高富小学校	2 回	関市立 上之保小学校	1 回	郡上市立 明宝小学校	1 回	多治見市立 昭和小学校	1 回	名古屋市立 稲西小学校	1 回	高山市立 南小学校	1 回
岐阜市立 長森南中学校	2 回	関市立 下有知小学校	1 回	郡上市立 和良小学校	1 回	多治見市立 精華小学校	1 回	恵那市立 中野方小学校	1 回	高山市 生活環境課	1 回
岐阜市立 合渡小学校	2 回	関市立 武芸小学校	1 回	七宗町立 神渕小学校	1 回	多治見市立 南姫小学校	2 回	恵那市立 岩邑小学校	2 回	飛騨市立 古川小学校	1 回
海津市立 下多度小学校	1 回	関市立 博愛小学校	1 回	可児市立 広見小学校	2 回	多治見市立 滝呂小学校	2 回	下呂市立 宮田小学校	1 回	飛騨市立 古川西小学校	3 回
水門川の 川底学習会	1 回	関市立 瀬尻小学校	2 回	御嵩町立 上之郷小学校	1 回	多治見市立 市之倉小学校	1 回	下呂市立 上原小学校	1 回		
養老町立 上多度小学校	1 回	関市立 上之保中学校	1 回	川辺町立 川辺西小学校	1 回	土岐市立 鶴里小学校	2 回	下呂市立 小坂小学校	1 回		
大垣市立 綾里小学校	2 回	関市立 金竜小学校	1 回	八百津町立 潮見小学校	1 回	土岐市立 肥田小学校	1 回	下呂市立 金山小学校	1 回		
大垣市立 宇留生小学校	1 回	関市立 富野小学校	1 回	美濃加茂市立 太田小学校	1 回	瑞浪市立 釜戸小学校	1 回	下呂市立 萩原小学校	1 回		
池田町立 池田小学校	1 回	美濃市立 牧谷小学校	1 回	坂祝町立 坂祝小学校	1 回	瑞浪市立 日吉小学校	1 回	下呂市立 萱田小学校	1 回		

２)平成25年度　支援活動一覧表

事務所	No.	支援校名	H24~継続校	分類	テーマ	実施時期・対象
岐阜	1	瑞穂市立本田小学校		環境	「瑞穂市の河川の水質･生き物」	6 月・4 年生
	2	北方町立北方西小学校		環境	「糸貫川の生き物と水質」	7 月・4 年生
	3	山県市立高富小学校	○	治水 環境 防災	「防災学習と石田川の河川環境」	7 月, 10 月･4 年生
	4	岐阜市立長森南中学校	○	治水 環境	「カワゲラウオッチング」	9 月, 10 月･1 年生
	5	岐阜市立合渡小学校		治水 防災	「集中豪雨・水害について」 「河川改修・伝統的防災施設について」 「排水機場・逆水樋門の役割」 「流れる水の働き」 「増水した川の危険について」	10 月、11 月 ・4, 5 年生
大垣	6	海津立下多度小学校		治水 環境	「川にすむ生き物を見つけよう」	6 月・3 年生
	7	水門川の川底学習会	○	治水 環境	「歩いて観よう水門川クリーン作戦」	7 月・小学生他
	8	養老町立上多度小学校	○	砂防 防災	「土砂災害」及び「砂防」について	9 月・4 年生
	9	大垣市立綾里小学校		治水 防災	「伝統的防災施設」について	9 月・4 年生
	１０	大垣市立宇留生小学校	○	治水 防災	「大垣の治水を学ぶ」	11 月・5 年生
揖斐	１１	池田町立池田小学校	○	砂防	土砂災害とは 土石流とは 砂防えん堤の役割	4 月・5 年生
	１２	大垣市立綾里小学校	○	砂防 防災	杭瀬川の上流について (大津谷　砂防えん堤について)	10 月・3 年生
	１３	揖斐川町立谷汲中学校		環境	菅瀬川調査活動	11 月・1 年生
美濃	１４	関市立武儀東小学校	○	環境	「河川環境・水環境を学ぶ」	6 月・4 年生
	１５	関市立上之保小学校	○	環境	「河川環境を学ぶ」	6 月・4 年生
	１６	関市立下有知中学校		環境	「河川環境を学ぶ」	6 月・1 年生
	１７	関市立武芸小学校	○	環境	「河川環境に学ぶ」	7 月・3 年生
	１８	関市立博愛小学校	○	環境	「河川環境・水環境を学ぶ」	7 月・5 年生
	１９	関市立瀬尻小学校		治水 防災	「防災を学ぶ」 昔から伝わる「伝統的防災施設」を学ぶ 「河川環境・水環境を学ぶ」	7, 10 月 ・4, 6 年生
	２０	関市立上之保中学校		環境	「河川環境・水環境を学ぶ」	7 月・1 年生
	２１	関市立金竜小学校		治水 防災	「防災を学ぶ」 昔から伝わる「伝統的防災施設」を学ぶ	9 月・4 年生

事務所	No.	支援校名	H24~継続校	分類	テーマ	実施時期・対象
美濃	２２	関市立富野小学校		環境	「河川環境を学ぶ」	10 月・5 年生
	２３	美濃市立牧谷小学校	○	環境	「河川環境を学ぶ」	11 月・5 年生
郡上	２４	郡上市立牛道小学校	○	治水防災	阿多岐ダムについて	5 月・1,2 年生
	２５	郡上市立白鳥小学校	○	治水防災	阿多岐ダムについて	6 月・3 年生
	２６	郡上市立明宝小学校	○	環境砂防	砂防えん堤と魚道について	9 月・4 年生
	２７	郡上市立和良小学校	○	砂防防災	砂防えん堤の役割と土砂災害に対する備えについて	11 月・5 年生
可茂	２８	七宗町立神渕小学校	○	環境	「川をきれいに」	6 月・4 年生
	２９	可児市立広見小学校		治水防災	「2010 年 7 月 15 日におきた可児川の災害について」	6,7 月・5 年生
	３０	御嵩町立上之郷小学校	○	砂防防災	「2011 年 9 月 20 日に御嵩町でおきた災害について」	6 月・5 年生
	３１	川辺町立川辺西小学校	○	環境	「川をきれいに」	7 月・5 年生
	３２	八百津町立潮見小学校		環境	「川をきれいに」	7 月・3,4 年生
	３３	美濃加茂市立太田小学校		治水防災	「昭和 58 年 9 月 28 日におきた木曽川の洪水について」	9 月・4 年生
	３４	坂祝町立坂祝小学校		治水防災	「昭和 58 年 9 月 28 日におきた木曽川の洪水について」	9 月・4 年生
多治見	３５	多治見市立池田小学校		治水環境	「河川環境を学ぶ」	5 月・4 年生
	３６	多治見市立根本小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	5,9 月・4 年生
	３７	多治見市立昭和小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	5 月・3 年生
	３８	多治見市立精華小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	6 月・5 年生
	３９	多治見市立南姫小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	6 月・4 年生
	４０	多治見市立滝呂小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	6,8 月・2,5 年生
	４１	多治見市立市之倉小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	7 月・4 年生
	４２	土岐市立鶴里小学校		治水環境	「河川環境を学ぶ」	5,6 月・4 年生
	４３	土岐市立肥田小学校		治水環境	「河川環境を学ぶ」	9 月・3 年生
	４４	瑞浪市立釜戸小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	7 月・5 年生
	４５	瑞浪市立日吉小学校	○	治水環境	「河川環境を学ぶ」	7 月・5 年生

事務所	No.	支援校名	H24~ 継続校	分類	テーマ	実施時期・対象
多治見	４６	瑞浪市立瑞浪小学校	○	治水 環境	「河川環境を学ぶ」	7 月・5 年生
	４７	瑞浪市立土岐小学校	○	治水 環境	「河川環境を学ぶ」	9 月・5 年生
	４８	名古屋市立稲西小学校	○	治水 環境	「河川環境を学ぶ」	10 月・3 年生
恵那	４９	恵那市立中野方小学校		治水	「ダムの役割を学ぶ」	7 月・4 年生
	５０	恵那市立岩邑小学校	○	治水 環境 砂防	「ダム、災害及び河川環境を学ぶ」	7 月・4 年生
下呂	５１	下呂市立宮田小学校		治水	住みよい暮らしをつくる ―水はどこから	7 月・4 年生
	５２	下呂市立上原小学校	○	環境 砂防	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	7 月・ 1, 2, 3, 6 年生
	５３	下呂市立小坂小学校		環境 砂防	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	7 月・5 年生
	５４	下呂市立金山小学校		環境 砂防	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	7 月・5 年生
	５５	下呂市立萩原小学校	○	環境 砂防	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	7 月・5 年生
	５６	下呂市立菅田小学校		環境 防災	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	8 月・5, 6 年生
	５７	下呂市立尾崎小学校	○	環境 砂防	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ	8 月・4 年生
高山	５８	高山市立宮小学校	○	治水 環境 砂防	カワゲラウオッチング 豪雨時の避難について 土砂災害について	5 月・5 年生
	５９	高山市立南小学校	○	治水 環境 砂防	カワゲラウオッチング 護岸について 土砂災害について	7 月・4 年生
	６０	高山市生活環境課		治水 環境 防災	カワゲラウオッチング 大雨が降った川の状態について	8 月・小学生
古川	６１	飛騨市立古川小学校		環境 防災	「身近な河川環境」	6 月・4 年生
	６２	飛騨市立古川西小学校	○	治水 環境 防災	「身近な河川環境」 「伝統的防災マップを活用した地域防災教育」	6、7, 11 月 ・4, 5 年生

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞穂市立本田小学校	担当教員名	小木曽先生 河村先生	対象学年・人数	４年生　７１名
実　施　日	６月１９日(水)		実施場所	本田小学校(多目的室)	
テ　ー　マ	「瑞穂市の河川の水質・生き物」		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：　河川環境（瑞穂市内の河川の水質）

瑞穂市の河川（糸貫川・天王川・犀川・五六川・中川・（本巣市内の糸貫川最上流）の COD パックテストをクラスの全員で実施。グループ毎に取りまとめ発表した。

学習内容②：河川環境（糸貫川の生き物について）

糸貫川に棲む水生生物を観察し、図鑑と見比べながら名前を当てるクイズを実施。川にどんな生き物が棲んでいるかについて学んだ。

学習内容③：岐阜土木事務所の仕事

岐阜土木事務所の仕事内容（主に河川砂防の仕事）について紹介した。

【学習結果と考察】

- 瑞穂市内の河川毎の水質の差が確認できた。また上流の水と下流（瑞穂市内）の水との水質の違いも学べた。
- 身近な河川に棲む生物に関して学べた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 学校近隣の河川での生物調査実習が困難であったため安全に環境学習できる場所が確保できるとより川への関心が高まると思う。
- 実質の時間がそれぞれ３０分程度で実施したが、もう少し時間を確保する必要があった。

備　　考	

記入者	所属：河川第１係	氏名：宮崎　剛	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	北方町立北方西小学校	担当教員名	星野先生 臼井先生	対象学年・人数	４年生　４５名
実　施　日	７月１１日(木)		実施場所		糸貫川・小学校教室
テ　ー　マ	「糸貫川の生き物と水質」		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：　糸貫川の生物調査

小学校の近くを流れる糸貫川で生徒たちによる生物調査を行い、直接川と生き物に接する授業を行った。

学習内容①：糸貫川の生物調査

採捕した生物について解説を行った。

学習内容②：糸貫川の水質について

ＣＯＤパックテストにより、糸貫川の水と糸貫川の水にジュースを混ぜたものを比較する実験を行い、環境への影響を考える授業を行った。（写真は４－１クラス）

学習内容②：糸貫川の水質について

４－２クラスの授業風景

【学習結果と考察】

- 身近な河川に棲む生物に関して学ぶことが出来たと思う。
- 糸貫川の現在の水質と空き缶のポイ捨てによる川の汚染について学ぶことが出来たと思う。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 学校近隣の河川での生物調査が出来たのは良かったが採捕した魚を生徒たちがじっくり観察するする時間が無く残念であった。
- ＣＯＤパックテストについては一定の成果があったと思う。

備　　考	

記入者	所属：河川第１係	氏名：宮崎　剛	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	山県市立高富小学校	担当教員名	村瀬先生	対象学年・人数	４年生　７１名
実　施　日	７月１２日(金)		実施場所		石田川（高富小学校）
テ　ー　マ	「防災学習と石田川の河川環境」 河川の水害に関して、及び石田川の今昔や環境について学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：川の学習と防災について	学習内容②：石田川について
水害の恐ろしさや水害対策について説明することで、川についての理解を深め、豪雨時の対応について学習した。	航空写真を基に石田川付近の変化を確認し、過去の水害被害をもとに、改修事業の必要性や環境に配慮した施工などを説明した。
学習内容③：	学習内容④：

【学習結果と考察】	【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】
・　川についての知識を得ることで防災意識を高めることができた。 ・　昔と比べ、石田川周辺の土地利用及び環境の変化がわかった。	・　過去の水害について説明することにより、子供たちの川についての興味を引くことができた。 ・　学校側でホタルについて学習していたため、自然環境に配慮した河川改修について、積極的な意見がなされた。

備　　考	

記入者	所属：河川第一係	氏名：林　靖弘	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	山県市立高富小学校	担当教員名	村瀬先生	対象学年・人数	４年生　７１名
実　施　日	１０月１８日(金)		実施場所	石田川（高富小学校）	
テ　ー　マ	石田川の水質を他の川と比べながらパックテストを使って調べよう		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：パックテストについて	学習内容②：テスト結果の比較
パックテストについて説明を行い、河川ごとに検査を行う。	テスト結果について取りまとめを行い、川の水質について比較を行う。
学習内容③：	学習内容④：

【学習結果と考察】

- 水質調査としてパックテストを学習。
- 石田川の上流と下流について及び他の河川と比較して、どの水がきれいなのか検討した。
- 河川の水質をきれいに保つことの大切さについて学習。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- パックテストという簡易な検査で、身近にある河川の水質を調べることで、川について興味を持ってもらえた。
- 河川をきれいにするためゴミを捨てないという意見が子供たちから出たことは良好である。

備　　考	

記入者	所属：河川第一係	氏名：林　靖弘	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	岐阜市立長森南中学校	担当教員名	山口先生	対象学年・人数	１年生１３６名
実　施　日	９月２４日(火)		実施場所	境川（新荒田川分流点）	
テ　ー　マ	「カワゲラウォッチング」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	ＮＰＯ法人ｅ－ｐｌｕｓ生涯学習研究所	

学習内容①：水生生物をつかまえよう

境川に入って、生き物調査を実施。
なかなか捕まえることができず、みんな一生懸命でした。
その姿に、川が汚いと感じている様子はありませんでした。

学習内容②：どんな水生生物がいるかな

境川にはどんな生き物がいたのかを調べるため、班毎に採取した生き物が何だったのか、スケッチをとったり図鑑を見比べたりしました。

学習内容③：境川の水質を知る

パックテストにより、境川の水質を調べました。
テストは班毎に行いました。

学習内容④：境川の特徴や危険性について

境川の生い立ちや、その特徴について説明しました。
また、川の危険性についても説明し、県が行っている事業への結びつきについて説明しました。

【学習結果と考察】

- 身近な川の生態も詳しく調べると、多様であることが理解されたと思う。
- 子供たちは、川に入ってとても楽しそうに魚を捕まえていました。
- 子供達にとっては、境川は身近な河川でありながら、このように実際に川に入ってふれあう機会がほとんど無いようでした。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 身近な境川とふれあうことで、愛着がわき、これからも大事にして行こうという意識が芽生えたと思う。
- 今回は、学校側から例年よりもう少し採取エリアを広げて欲しいと要望があったので、上流側へ区間を延長しました。境川はコンクリートブロック護岸なので、昇降施設を増設して、安全を確保しました。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川第２係	氏名：八田雅昭、藤原雅司	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	岐阜市立長森南中学校	担当教員名	山口先生	対象学年・人数	１年生１３６名
実　施　日	１０月４日(金)		実施場所	河川環境楽園じゃぶじゃぶの河原	
テ　ー　マ	「カワゲラウォッチング」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	ＮＰＯ法人ｅ－ｐｌｕｓ生涯学習研究所	

学習内容①：水生生物をつかまえよう

じゃぶじゃぶの河原に入って、水生生物の採取を行いました。人数が多いので、２回に分かれて実施しました。

学習内容②：どんな水生生物がいるかな

どんな生き物がいたのかを調べるため、班毎に採取した生き物が何だったのか、スケッチをとったり図鑑を見比べたりしました。

学習内容③：じゃぶじゃぶの河原の水質を知る

パックテストにより、じゃぶじゃぶの河原の水質を調べました。

学習内容④：河川環境楽園について

河川環境楽園について、じゃぶじゃぶの河原をもとに説明を行いました。

【学習結果と考察】

- 生徒達は、とてもきれいな水だと実感して、境川との水質の違いを感じていました。境川ももっときれいにしなければならないと感じたにちがいありません。
- 子供たちは、川に入ってとても楽しそうに水生生物を捕まえていました。
- カワゲラなど、きれいな水でしか生息しない生物を捕まえて、水質が良いことをさらに実感していました。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 市街地に住む子供達でも、きれいな水質の環境を提供出来る場所は大変効果があると感じました。
- 身近な境川との水質の違いを感じ、もっときれいにしなければならないという、願いを持っていただいて、大人になってもこの気持ちを持ち続けてほしいと思います。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川第２係	氏名：八田雅昭、藤原雅司	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	岐阜市立合渡小学校	担当教員名	吉田先生	対象学年・人数	５年生　７６名
実　施　日	１０月２２日(火)		実施場所		合渡小学校(ワークスペース)
テ　ー　マ	「集中豪雨・水害について」 「河川改修・伝統的防災施設について」 「排水機場・逆水樋門の役割」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　集中豪雨

岐阜県作成の DVD「集中豪雨に備えよう～7.15 豪雨災害の教訓～」を鑑賞し、集中豪雨の恐ろしさと豪雨の際の避難方法を学んだ。

学習内容②：水害について

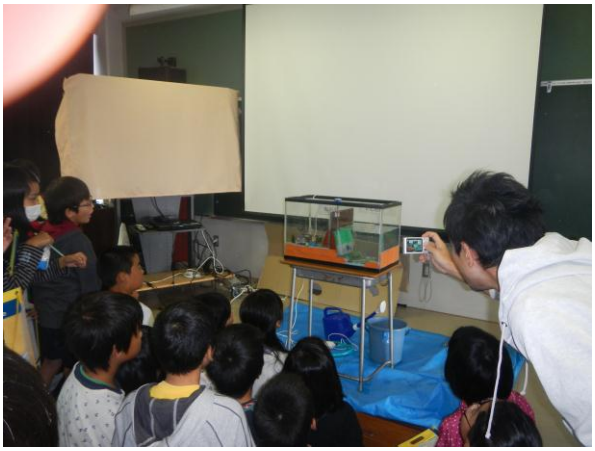
学習用スライドを用いて、洪水の起こり方や過去に起きた水害について学んだ。

学習内容③：治水と伝統的防災施設

様々な治水方法の紹介と伝統的防災施設による治水について学んだ。

学習内容④：逆水樋門と排水機場の役割

排水機場の模型を用いて、逆水樋門と排水機場の役割を学んだ。



【学習結果と考察】

- 過去の災害や伝統的防災施設を紹介することで、治水・防災の両方を学ぶことができた。
- 模型を使用することにより、逆水樋門と排水機場の役割をよりわかりやすく学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- もともと防災に対する意識が高いクラスでの授業であったため、よく理解していただいた。
- 質問が伝統的防災施設に関するものが多く、興味を持っていただけたと感じた。
- 今後は、洪水時にはどこへ避難するのがよいかも組み込んでいけるとよいと感じた。

備　　考	子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 80,81 頁掲載】

記入者	所属：河川第１係	氏名：畑中　章吾	電話番号（内線）	２７７８

様式①　　（岐阜土木事務所　河川砂防課）

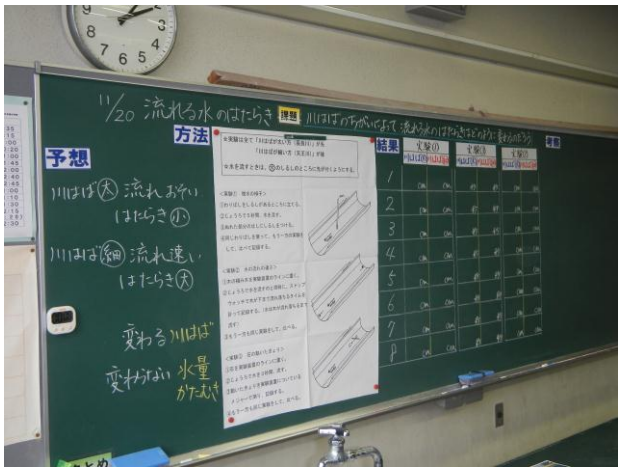
支援学校名	岐阜市立合渡小学校	担当教員名	梅田先生	対象学年・人数	５年生　３６名
実　施　日	１１月２０日(水)		実施場所	合渡小学校(理科室)	
テ　ー　マ	「流れる水の働き」 「増水した川の危険について」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　流れる水の働き

写真で長良川と天王川の幅の違いを確認し、流れの働きがどのように違うか予想を行った。

学習内容②：流れる水の働き

川幅により、流れる水の働きの違いを予想した。



学習内容③：　流れる水の働き

長良川、天王川を模した装置を用いて川幅と流れる水の働きの関係を学んだ。

学習内容④：増水した川の危険について

理科の授業で川の流れの働きを学び、最後に増水した川の危険について学んだ。

【学習結果と考察】

・　理科の授業で川の流れの働きを学んだ後、小さな川でも増水した時には運搬する力が強くなり、流される危険があるというところまで学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

・　理科の授業の中で、増水時の対応や洪水時にはどこへ避難するべきかということまで学んでおり、防災意識の高さを感じた。

備　　考	子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 80,81 頁掲載】

記入者	所属：河川第１係	氏名：畑中　章吾	電話番号（内線）	058-215-0978

様式①　　（大垣土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	海津市立下多度小学校	担当教員名	横井先生	対象学年・人数	３年生　２３名
実　施　日	６月５日（水）		実施場所	津屋川（志津橋付近）	
テ　ー　マ	「川にすむ生き物を見つけよう」 津屋川の環境や特徴を学ぶ		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	海津市建設課	

学習内容①：津屋川の特徴を学ぶ

津屋川の特徴を知るために堤防を散策し、他の河川との違いや養老山地との関わりを学ぶことができた。

学習内容②：川とのふれあい方を学ぶ

川への入り方や危険な場所等、川はどういうものかを学ぶことができた。

学習内容③：津屋川にすむ生物を見つけよう

水生生物の居場所や採取方法を知り、どのような生物がどこに生息しているのかを学ぶことができた。

学習内容④：生き物の種類分け、観察、発表

採取した水生生物の名前、特徴について学び、最後に児童たちによる成果の発表を行いました。

【学習結果と考察】

・　津屋川には、ドンコ、スナヤツメ、テナガエビ、マシジミ等の魚貝類のほか、コオニヤンマ、トビゲラ等の幼虫も多くみられ、多種多様な生物が生息していることがわかりました。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

・　児童たちは、怖がることなく楽しく水生生物採取を行うことができた。津屋川は多くの生物がすんでいる自然豊かな川であることを知ってもらうほかに、治水や周辺環境等についても興味・関心をもってもらうことを期待している。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　３人参加

記入者	所属：砂防係	氏名：森　光正	電話番号（内線）	３７５

様式①　　（大垣土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	水門川の川底学習会	担当教員名	一	対象学年・人数	小学生他　８０名
実　施　日	７月２７日(土)		実施場所		水門川（貴船広場周辺）
テ　ー　マ	「歩いて観よう水門川クリーン作戦」 水門川の現状や環境等を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	水門川クリーン作戦実行委員会	

学習内容①：　水門川の生態を学ぶ

水門川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：水門川の環境を学ぶ

現状の水門川がどのような状態であるか、ゴミを拾うことにより環境を保つことができることを学ぶことができた。

学習内容③：水生生物を学ぶ

水生生物の捕獲方法や各種生物の居場所を知り、どのような生物がどのくらい生息しているのかを学ぶことができた。

水生生物の名前や種類を知り、体型や特徴等を学ぶことができた。また水門川の生態系を学ぶことができた。

【学習結果と考察】

水門川は、アユ、カマツカ、オイカワ、ヨシノボリ、ナマズ、ボラ、モズクガニ、スジエビなどの在来種が多くみられたことから、多種多様な生物が生息し、良好な河川環境であると考えられる。

しかしながら、オオクチバス、アメリカザリガニなどの外来種も見られた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

子どもたちは、川の中に魚がたくさんいることについて驚いていた。さらにボラがいたことにより海と繋がっていることを実感していた。また、空き缶やペットボトルのゴミが多いことにも驚いていたため、ハリヨがすめるようなきれいな川にしなければいけないという環境に関しての興味をもつようになった。今後、環境学習へと導きたい。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　　１８人参加

記入者	担当：河川係	氏名：古田　清	電話番号（内線）	３６８

様式①　　（大垣土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	養老町立上多度小学校	担当教員名	森先生	対象学年・人数	４年生　３２名
実　施　日	９月１９日(木)		実施場所	小倉谷（えん堤工、護岸工）	
テ　ー　マ	「土砂災害」及び「砂防」について		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：土砂災害と砂防について

土砂災害には、「土石流」「がけ崩れ」等があることや、その発生原因や規模を知ることで、土砂災害から身を守る方法を学びました。

学習内容②：地元の特徴を学ぶ

当地域は、養老山系の扇状地に位置し、小倉谷が家や道路より高い所を流れていること、また、昨年、西濃地域で土砂災害が実際起きていることを知りました。

学習内容③：砂防施設の役割について（模型実験）

模型を使うことにより、砂防えん堤や土砂崩壊を防止する擁壁の機能を体験することができた。

学習内容④：砂防施設の役割について（現地見学）

現地見学を行い、見て触れることで砂防施設の役割を実感しました。

【学習結果と考察】

- 教室では、スライドを見ることにより「土砂災害」が身近に起きていることや、その恐ろしさを学ぶことができた。
- 模型実験では、砂防施設があると家や橋が流されないこと、現地見学では、砂防施設の役割を学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 砂防施設の役割について、教室で説明することより、現場を見て知ってもらうことに重点を置いた。
- 毎年、４年生を対象に学習を行うことにより、児童を通じて地域住民が「土砂災害」「砂防」について理解してもらうことを期待している。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　３人参加

記入者	所属：砂防係	氏名：森　光正	電話番号（内線）	３７５

様式①　　（大垣土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	大垣市立綾里小学校	担当教員名	竹中先生	対象学年・人数	４年生　３０名
実　施　日	９月２６日（木）		実施場所	校内	
テ　ー　マ	「伝統的防災施設」について		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　伝統的防災施設を学ぶ

昔から伝わる水害を防ぐ施設である霞堤や輪中堤などについて学ぶことができた。

学習内容②：西濃の河川の形状について学ぶ

木曽三川の昔と今の形状について学び河川の氾濫の構造について学ぶことができた。

学習内容③：水害について学ぶ

身近で水害が起こっていることから、なぜ河川が氾濫するのかについて学ぶことができた。

学習内容④：輪中の人々の工夫を学ぶ

身近な輪中の人々が昔からどのような工夫をして水害から身を守る工夫をしているのかをを学んだ。

【学習結果と考察】

・　子どもたちは学校側で防災について事前に学習をしていたため、とても興味があるようで、時折、うなずきながら真剣に学習していた。

以上のことから、昔、身近で水害が起きた地域であることを把握していたため、防災についてとても関心があると認識できた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

・　学校側で身近な防災施設へ事前に見学へ行っており、子どもたちは学習内容を素早く理解できていた。
・　学習時間が終わっても、河川の形状、水害、防災について関心があるようで質問は止まることがなく続いていたので、この地域の子どもたちは、とても真剣に防災について学ぼうとする姿勢が見受けられた。
・　今後も子どもたちの関心がなくならないよう防災について継続的に行いたい。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：古田　清	電話番号（内線）	３６８

様式①　　（　大垣土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	大垣市立宇留生小学校	担当教員名	牛丸先生	対象学年・人数	５年生　８０名
実　施　日	１１月７日(木)		実施場所	宇留生小学校	
テ　ー　マ	「大垣の治水を学ぶ」 大垣土木管内の河川を事例とした 治水を学ぶ		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　水害を学ぶ

水により起こされるおそろしい災害について、氾濫、洪水、とはどのようなものかを学ぶことが出来た。

学習内容②：過去の水害を学ぶ

大昔から最近までの水害を写真を見ながら、水の怖さを学ぶことが出来た。

学習内容③：治水を学ぶ

洪水を防ぐ掘削、築堤、ダム、放水路、遊水池、背割堤、陸閘、排水機場等、具体的な方法を学ぶことが出来た

学習内容④：杭瀬川の河川改修を学ぶ

小学校の近くを流れている杭瀬川の整備計画や河川改修工事について学ぶことが出来た

【学習結果と考察】

- 水害を知らない子どもたちであったため、水害の映像をみて驚いていた
- 水害被害に遭遇したことがないため、避難方法や対処法についての質問が多かった
- 身近な河川の名前はよく知っていた

以上のことから、水害や治水について少しでも関心を持つようになってくれたのではないかと考えられる

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 水害でどのような被害があるのかを子どもたちに分かりやすいように写真や絵図等を用いて工夫した
- 今後は、河川改修について近接の工事現場へ見学に行く機会を設けることができるような学習方法を考慮したい

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：古田　清	電話番号（内線）	３６８

様式①　　（揖斐土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	池田町立池田小学校	担当教員名	上野先生	対象学年・人数	５年生　６３名
実　施　日	４月２２日(月)		実施場所		大津谷（大津谷公園）
テ　ー　マ	土砂災害とは 土石流とは 砂防えん堤の役割		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	池田町建設課	

学習内容①：　日本列島の特徴について

日本列島の特徴についてパネルを使って説明を行った。
自然災害の多さや怖さを学んだ。

学習内容②：土砂災害について

土砂災害について説明を行った。
大雨時の危険な場所はどのようなところなのか、災害の前兆現象を学んだ。

内容③：土石流について

土石流災害について、模型を使って説明を行った。
砂防施設の役割について学んだ。

学習内容④：砂防えん堤の役割

平成２０年の災害について説明を行い。災害関連緊急砂防で施工したえん堤の大きさや、工事の方法を説明した。

【学習結果と考察】

- 自然災害についてどのように発生するか、どんなところに危険があるかを学んだ。
- 砂防施設の効果や役割について学んだ。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 住んでいる地区から見える山の中に、このような大きな施設があることを改めて認識し、その役割について理解することが出来た。
- パネルや模型があった為スムーズに説明することが出来た。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：渡辺　忠司	電話番号（内線）	３４１

様式①　　（揖斐土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	大垣市立綾里小学校	担当教員名	川瀬先生	対象学年・人数	３年生　２８名
実　施　日	１０月９日(水)		実施場所	大津谷（池田町）	
テ　ー　マ	杭瀬川の上流について （大津谷　砂防えん堤について）		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：杭瀬川の上流について

杭瀬川の源流となる池田山にのぼり、周辺環境について、住んでいる大垣市内との違いを学んだ。

学習内容②：自然災害について

自然の力が引き起こす災害について説明し、自然災害がの日本に多いことを学んだ。

学習内容③：土砂災害について

模型を使って土砂災害の恐ろしさを実感してもらった。

学習内容④：砂防えん堤の役割

大津谷砂防えん堤の大きさ、施工方法などについて説明を行った。

【学習結果と考察】

- 砂防えん堤の役割について模型で紹介したところ興味深く見ていた。
- 住んでいる地区の川がどこから流れてきているのか、上流部は急な山であることや、土砂災害から地域を守るために砂防施設がつくられていることを学んだ。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 児童が住んでいる地域にはない環境であり、砂防えん堤の役割が山間地域では重要な施設であることを認識してもらえたと思う。
- 地域ごとに危険な箇所があることを、学んでくれたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：渡辺　忠司	電話番号（内線）	３４１

様式①　　（揖斐土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	揖斐川町立谷汲中学校	担当教員名	加納先生	対象学年・人数	１年生　２４名
実　施　日	１１月６日(水)		実施場所	管瀬川（揖斐川町谷汲名礼）	
テ　ー　マ	管瀬川調査活動		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	揖斐川町谷汲振興事務所	

学習内容①：谷汲地域の自然環境について

揖斐川町谷汲地域の川にすむ生き物や自然環境について有識者から説明を受けた。

学習内容②：水質調査の体験

パックテスト（ＣＯＤ、ＰＨ）を体験した。

学習内容③：水生生物採捕

管瀬川に入って川にすむ生物の採取を行い、生息状況や河川（河床）の状況を確認することが出来た。

学習内容④：水生生物を学ぶ

採取した水生生物を自ら仕訳を行い、有識者より説明を受けた。

【学習結果と考察】

- 水質検査を行った結果、「酸性より」で「汚れている」に入る結果であったが、採取した水生生物の種類は多く、良好な河川環境であった。
- 自然豊かな地域であることを認識し、自然環境の保護が重要である。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 実施した場所が支川との合流地点であり、河川の流れの違いや、河床の状況を実感することが出来たと思う。
- 住んでいる地域の河川にどんな生物が住んでいるのかを学び自然環境の大切さを実感できたのではないか。

備　　考	岐阜県希少生物保護推進員　１名参加

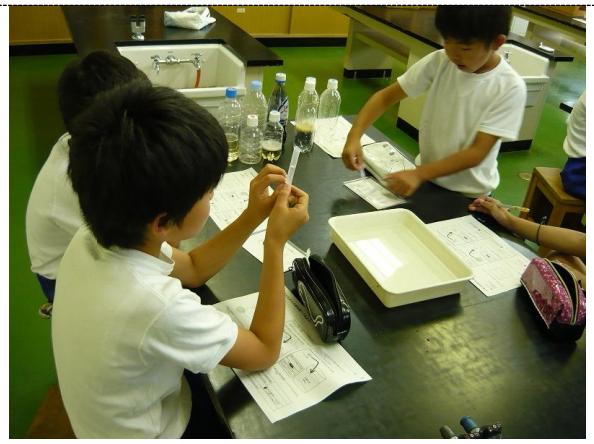
記入者	所属：河川砂防係	氏名：渡辺　忠司	電話番号（内線）	３４１

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立武儀東小学校	担当教員名	石原先生	対象学年・人数	４年生　１２名
実　施　日	６月１９日(水)		実施場所	武儀東小学校	
テ　ー　マ	「河川環境・水環境を学ぶ」 パックテストにより津保川の水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：パックテストから水道水の水質を学ぶ

パックテストにより、水道水のＣＯＤを調べ、普段使用している水がどの程度の水質なのかを学んだ。



学習内容②：パックテストから津保川の水質を学ぶ

水道水と比べて津保川の水質がどの程度か予想し、パックテストにより、津保川の水のＣＯＤ値を実際に確認した。

学習内容③：家庭排水の川の水質への影響を学ぶ

子供たちが家庭から持ち寄ったお米のとぎ汁などのＣＯＤ値を調べ、川の水と比較することで、少量の排水であっても魚や河川環境にどれくらいの影響を与えるかを学んだ。

学習内容④：身近な津保川を知る

津保川の水質はどうであったか、これから川をどのようにしていきたいか、児童の思いを発表した。

【学習結果と考察】

- ビーカーの水にみそ汁などの家庭排水を一滴入れ（1000 倍希釈）、水の透明度にほとんど変化がない状態であっても、魚が住めない環境であることが分かった。
- これにより、少量の排水をそのまま川に流したり、空き缶などを川に捨てることは、どれほど水生生物、魚類に影響を与えるかを学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 川の水質、環境を具体的に意識したことがない子供たちにとって、パックテストにより、定量的に比較することは、分かりやすいものであり、河川環境の関心を高めるためには、効果的であると感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加			
記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立上之保小学校	担当教員名	長尾先生	対象学年・人数	４年生　５名
実　施　日	６月２７日(木)		実施場所		津保川（和田野橋下流）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 カワゲラウォッチングにより津保川の水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：川の危険性を学ぶ

川の位置によって流速、水深が変化すること、川に入るにあたっての注意事項、危険性を学んだ。

学習内容②：身近な津保川を知る

川に入って、水生生物の採取を行うことで、川とふれあい、どんな場所に生物が生息しているかを体感した。

学習内容③：津保川の生態を学ぶ

採取した生物の個体を特定し、名称を知るとともに、身近な津保川に、どんな生物が生息しているかを学んだ。

学習内容④：指標生物から津保川の水質を学ぶ

生息が確認された生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認することで、津保川の水質を学ぶとともに、実際に水生生物に触れることで、生物に対する理解を深めた。

【学習結果と考察】

- ヒラタカゲロウなどのカゲロウ類、カワゲラ、ヘビトンボなど、Ⅰ（きれい）の指標生物を中心に数多くの水生生物が確認できた。
- また、ヨシノボリの卵を見つけるなど、普段見ることのない新たな発見があった。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 津保川は、学校のすぐ近くを流れる慣れ親しんだ川であるが、生物を捕まえるという体験は初めての子が多かったようで、いきいきとしていた。
- 今回の学習を通して川への親しみをこれまで以上に持ってほしいと感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立下有知中学校	担当教員名	安田先生	対象学年・人数	１年生　７９名
実　施　日	６月２８日(金)		実施場所	寺田川（関市役所北）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 水生生物調査により寺田川の生物、水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	関市土木課	

学習内容①：水生生物の採捕を学ぶ

タモ網を使用し、寺田川のどんなところにどんな生物がすんでいるかを学んだ。

学習内容②：寺田川の生物の生態を学ぶ

採捕した生物の個体を特定し、名称を知るとともに、実際に水生生物に触れることで、生物に対する理解を深めた。

学習内容③：指標生物から寺田川の水質を学ぶ

生息が確認された生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認することで、寺田川の水質を学んだ。

学習内容④：パックテストから寺田川の水質を学ぶ

パックテストにより、寺田川で採水した水のＣＯＤを調べるとともに、みそ汁などのＣＯＤ検査を行い、川のＣＯＤ値と比較することで、排水が魚や水生生物にどれ程の影響があるかを学んだ。

【学習結果と考察】

- 指標生物による水質確認では、水質階級はⅡ（すこしきたない）となった。
- カワニナ、スジエビなどの水生生物をはじめ、フナ、カワムツ、ドジョウなどの魚類も数多く確認された。
- また、外来種のアメリカザリガニが多くみられ、オオクチバスも確認された。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 寺田川は、水田の用排水も兼ねる人工河川であり、足場も悪く人が歩くと濁りも生じたが、それにもかかわらず、積極的に生物調査を実施する姿は、大変印象的であった。
- パックテストでは、少し濁りのある川の水より、コーラやみそ汁を希釈したほぼ透明な水の方が、ＣＯＤ値が高いことを知り、驚きの声があがっていた。
- 水生生物にとって、きたいない水は、具体的にどういうことなのか、うまく説明できればよかったと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立武芸小学校	担当教員名	大塚陽子	対象学年・人数	３年生　１７名
実　施　日	７月８日(月)		実施場所	武儀川（一色橋下流）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 水生生物調査により武儀川の生物、水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：カワゲラウォッチングを学ぶ	学習内容②：武儀川の生態を学ぶ
川に入って、水生生物の採取を行うことで、川で注意する点を学ぶとともに、どんな場所に生物が生息しているかを体感した。	採取した生物の個体を特定し、名称を知るとともに、実際に水生生物に触れることで、生物に対する理解を深めた。
学習内容③：指標生物から武儀川の水質を学ぶ	学習内容④：身近な武儀川を知る
生息が確認された生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認するとともに、武儀川の水質がどうであるかみんなで話し合った。	武儀川の水質はどうであったか、これから川をどのようにしていきたいか、児童の思いを発表した。

【学習結果と考察】	【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】
・　カワゲラ、ヒラタカゲロウ、ヘビトンボなどの水質階級Ⅰ（きれい）に属する水生生物が多く確認されたが、ヒラタドロムシなどの水質階級Ⅱ（少しきたない）に属する水生生物も数多く確認され、武儀川は「少しきたない」と印象を受ける児童もいた。 ・　今回のカワゲラウォッチングには、サポートとして保護者の方も多く参加され、子供たちと一緒になって、武儀川の水質、環境について再認識されていた。	・　武儀川は、学校のすぐ近くを流れる慣れ親しんだ川であるが、川に入って生物を捕まえるという体験は初めての子が多かったようで、いきいきとしていた。 ・　川に入る機会も少ないため、今回の総合学習をとおして、川への親しみをこれまで以上に持ってほしいと感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立博愛小学校	担当教員名	杉下先生	対象学年・人数	５年生　５０名
実　施　日	７月９日(火)		実施場所	武儀川（博愛歩道橋下）	
テ　ー　マ	「河川環境・水環境を学ぶ」 カワゲラウォッチング、パックテストにより武儀川の水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：身近な武儀川を学ぶ

川に入って、水生生物の採取を行うことで、川とふれあい、どんな場所に生物や魚類が生息しているかを体感した。

学習内容②：指標生物から武儀川の水質を学ぶ

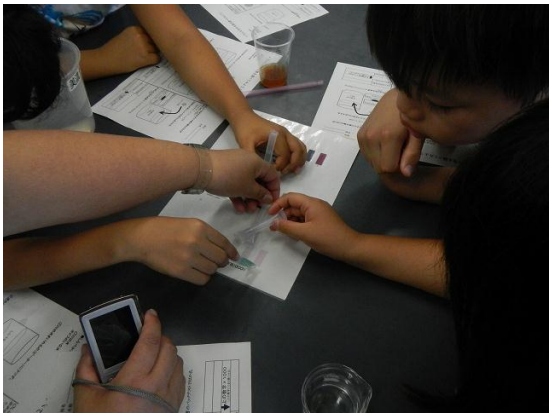
採捕した生物の個体を特定するとともに、それら生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認することで、武儀川の水質を学んだ。

学習内容③：パックテストによる水質検査を学ぶ

パックテストの方法、注意事項等を学ぶとともに、武儀川で採水した水のＣＯＤを調べ、どの種類の魚が住むことができる川なのかを学んだ。

学習内容④：家庭排水の川の水質への影響を学ぶ

水道水やジュース、みそ汁などのＣＯＤ検査を行い、川のＣＯＤ値と比較することで、ジュースや空き缶を川に捨てると、魚や水生生物にどれ程の影響があるかを学んだ。



【学習結果と考察】

- カワゲラ、ヘビトンボ、ヒラタドロムシなど、10 種程度の水生生物が確認され、子どもたち自身の水質階級判定では、Ⅰ（きれい）とⅡ（少しきたない）であった。
- 一方でアメリカザリガニなど、汚れた水質を好む生物も見つかり、子どもたちは困惑していた。
- ジュースやみそ汁などのＣＯＤ値は、おおよそ数千～数万となり、空き缶の中に付着したジュースが流れ出すだけでも、どれほど水生生物、魚類に影響を与えるかを学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 川では水生生物の採取のほか、ヨシノボリの卵を見つけるなど、全てが子どもたちにとっては新鮮だったようで、いきいきと活動していた。
- きれいな水にほんの少しジュースが混入しただけでも、ＣＯＤが跳ね上がるとの結果は、子どもたちに驚きを与えるもので、環境意識の向上には効果的であると感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：　河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立瀬尻小学校	担当教員名	古田先生	対象学年・人数	６年生　７３名
実　施　日	７月１２日(金)		実施場所	瀬尻小学校	
テ　ー　マ	「防災を学ぶ」 昔から伝わる「伝統的防災施設」を学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：長良川を学ぶ

学校の近くを流れる長良川の普段の様子を知るとともに、河川の仕組み、過去に流域で起きた災害、災害の恐ろしさについて学んだ。

学習内容②：霞堤を学ぶ

昔から伝わる「伝統的防災施設」である霞堤の仕組みを知るとともに、その機能、通常の河川堤防との違いを学んだ。

学習内容③：学校近くの霞堤の場所、機能を学ぶ

霞堤が学校の近くにあることを知るとともに、川の水が増えると霞堤がどのように機能するのか、霞堤がなぜこの地域に存在しているのかをアニメーション動画を通して学んだ。

学習内容④：霞堤の働きを体感する

霞堤の模型を使用し、実際に霞堤がどのような働きをするのか体感し、霞堤の中に建物を建てたらどうなるのか、これから霞堤をどうしていったらよいか考えた。

【学習結果と考察】

- 今回の総合学習は、伝統的防災施設マップを活用した防災教育の県内第１弾であり、子供たちは、自分たちの住む地域の近くに伝統的防災施設があることを初めて知ったようで、終始熱心に授業を聞いていた。
- 授業を受けた児童からは、「昔の人の知恵で地域が守られていることが分かった。マップを使ってもっと勉強したい。」、「昔の人の知恵が詰まっていて、街なども守られているので、すごく大切だと思った。」との感想があった。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 授業にあたっては、子供たちが普段なじみのない川の役割や防災施設の意味が問題なく理解できるよう話し言葉に工夫した。
- アニメーション動画や模型を使用して、普段の川と霞堤のある川との水の流れの違いを表現したところ、大変わかりやすかったようで、模型の霞堤に水が入っていくときには驚きの声があがっていた。

備　　考	７月１２日（金）ＮＨＫニュース（地方）にて総合学習の様子が放映された。 ７月１３日（土）読売新聞（岐阜版）に総合学習の記事が掲載された。【巻末資料 82 頁掲載】 ７月１５日（月）朝日新聞（岐阜版）に総合学習の記事が掲載された。【巻末資料 82 頁掲載】 ９月　４日（水）ぎふチャン　県政ホットラインにて総合学習の様子が放映された。

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立瀬尻小学校	担当教員名	古田先生	対象学年・人数	４年生　６７名
実　施　日	１０月１日(火)		実施場所		長良川（道の駅白鳥横）
テ　ー　マ	「河川環境・水環境を学ぶ」 カワゲラウォッチング、源流観察により長良川について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	郡上土木事務所	

学習内容①：長良川の違いを知る

上流域（白鳥町長滝）の長良川に入って、水生生物の採取を行うことで、川とふれあい、水温や川の様子を体感し、自分たちが住む関市の長良川と何が違うのかを学んだ。

学習内容②：指標生物から長良川の水質を学ぶ

採捕した生物の個体を特定するとともに、それら生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認することで、長良川源流部の水質を学んだ。

学習内容③：パックテストによる水質検査を学ぶ

パックテストの方法、注意事項等を学ぶとともに、川の水とみそ汁等が混入した水とＣＯＤ値を比較することで、家庭排水等が魚や水生生物にどれ程の影響があるかを学んだ。

学習内容④：長良川の源流部を感じる

長良川源流部に行き、川の様子を観察することで、下流部との川の形態の違い、魚類の違い、水質の違いを学んだ。

【学習結果と考察】

- 時期の影響があるせいか、全体的に捕獲した生物種類は少なかったが、カワゲラ、コオニヤンマ、ヤゴなどの水生生物が確認された。
- 川の水は冷たく、石の大きさや流れの速さも関市内の長良川とは違うため、川に入るだけでも、多くのことを学ぶことができた。
- 高鷲町の夫婦滝に行き、長良川の源流部の様子を観察することで、川の成立ちを学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 今回は、関市立瀬尻小学校の４年生が長良川源流部に赴き、カワゲラウォッチング、川の観察を通して、源流部と自分たちが住む中流域の違いを学ぶものであり、川の形態の違い、魚類や水質の違いが十分把握できるよう説明に工夫した。
- 実際に長良川上流部を体感することは、関市の長良川との違いが、より明確に児童たちに伝わるものであり、総合学習としては効果があるものと感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：　河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立上之保中学校	担当教員名	河合先生	対象学年・人数	１年生　１０名
実　施　日	７月１７日(水)		実施場所	津保川（寶主橋下流）	
テ　ー　マ	「河川環境・水環境を学ぶ」 カワゲラウォッチング、パックテストにより津保川の水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：身近な津保川を学ぶ

川に入って、水生生物の採取を行うことで、川とふれあい、どんな場所に生物や魚類が生息しているかを体感した。

学習内容②：指標生物から津保川の水質を学ぶ

採捕した生物の個体を特定するとともに、それら生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認することで、津保川の水質を学んだ。

学習内容③：パックテストによる水質検査を学ぶ

パックテストの方法、注意事項等を学ぶとともに、川の水、コーヒー、みそ汁などのＣＯＤ検査を行った。

学習内容④：家庭排水の川の水質への影響を学ぶ

川の水とコーヒー、みそ汁が混入した水とＣＯＤ値を比較することで、家庭排水等が魚や水生生物にどれ程の影響があるかを学んだ。

【学習結果と考察】

- カワゲラ、ヘビトンボ、サワガニなどの水質階級Ⅰ（きれい）に住む水生生物が比較的多く見つかった。
- ジュースやみそ汁などのＣＯＤ値は、おおよそ数千～数万となり、空き缶の中に付着したジュースが流れ出すだけでも、どれほど水生生物、魚類に影響を与えるかを学ぶことができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- きれいな水にほんの少しジュースが混入しただけで、ＣＯＤ値が跳ね上がるという結果には、子供たちに驚きを与えるもので、例え川の上流に住んでいても川の水質には気を付けていくべきと感想を述べる生徒もいた。
- 指標生物の水質判定のほかにパックテストにて水質判定を行うことは、環境意識の向上には効果的であると感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：　河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立金竜小学校	担当教員名	小岩先生	対象学年・人数	４年生１１４名
実　施　日	９月６日（金）		実施場所	金竜小学校	
テ　ー　マ	「防災を学ぶ」 昔から伝わる「伝統的防災施設」を学ぶ		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：長良川を学ぶ

学校の近くを流れる長良川の普段の様子を知るとともに、河川の仕組み、過去に流域で起きた災害、災害の恐ろしさについて学んだ。

学習内容②：霞堤を学ぶ

昔から伝わる「伝統的防災施設」である霞堤の仕組みを知るとともに、その機能、通常の河川堤防との違いを学んだ。

学習内容③：学校近くの霞堤の場所、機能を学ぶ

霞堤が学校の近くにあることを知るとともに、川の水が増えると霞堤がどのように機能するのか、霞堤がなぜこの地域に存在しているのかをアニメーション動画を通して学んだ。

学習内容④：霞堤の働きを体感する

霞堤の模型を使用し、実際に霞堤がどのような働きをするのか体感し、霞堤の中に建物を建てたらどうなるのか、これから霞堤をどうしていったらよいか考えた。

【学習結果と考察】

- 今回の防災教育は、学校の近傍に霞堤や陸閘といった防災施設がある金竜小学校で行ったもので、伝統的防災施設マップを活用した防災教育では管内で２校目となった。
- 模型は、実際の水の流れを感じられるため、普段の川と霞堤のある川との違いが分かりやすいようで、子供たちは大変興味を示していた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 授業にあたっては、４年生の児童が川の役割や防災施設の意味が問題なく理解できるよう話し言葉に工夫したつもりであったが、少し説明が足りなかった部分があったように感じた。
- 金竜小学校は、小学校の近くに霞堤や陸閘が存在するため、先生方も防災教育の必要性を強く認識しておられていた。
- 今回は、伝統的防災施設の機能や役割を主体とした説明であったので、あわせて避難行動に関する授業も必要と感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	関市立富野小学校	担当教員名	間宮先生	対象学年・人数	５年生　１８名
実　施　日	１０月１１日(金)		実施場所	小野川（富野小学校横）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 水生生物調査により小野川の生物、水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：カワゲラウォッチングを学ぶ

川に入って、水生生物の採取を行うことで、川で注意する点を学ぶとともに、どんな場所に生物が生息しているかを体感した。

学習内容②：小野川の生態を学ぶ

採取した生物の個体を特定し、名称を知るとともに、実際に水生生物に触れることで、生物に対する理解を深めた。

学習内容③：指標生物から小野川の水質を学ぶ

生息が確認された生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認するとともに、小野川の水質がどうであるかみんなで話し合った。

学習内容④：身近な小野川を知る

採取した水生生物は何か、小野川のきれいさはどうであったか、感想を発表した。

【学習結果と考察】

- サワガニなども確認されたが、ヒラタドロムシ、カワニナ、スジエビなどの水質階級Ⅱ（少しきたない）に属する水生生物が多く確認され、「少しきたない」と印象を受ける児童が多かった。
- 川に入ることで、川の中の石の感触や流れの速さ、川のにおいなど、普段感じることのない小野川の様子を直に感じとっていた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 小野川は、学校のすぐ横を流れる身近な川であるが、川に入って生物を捕まえるという体験は初めての子が多かったようで、いきいきとしていた。
- 身近な川とはいえ、時期によっては河川内に草が繁茂し、近寄れない場合もあるため、川に入りやすい環境をつくることも大切なことと感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加			
記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（美濃土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	美濃市立牧谷小学校	担当教員名	井上先生	対象学年・人数	５年生　１９名
実　施　日	１１月７日(木)		実施場所		板取川（蕨生大橋上流）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 水生生物調査により板取川の生物、水質について学ぶ		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

川に入って、水生生物の採取を行うことで、川で注意する点、どんな場所に生物が生息しているかを学んだ。また、川の冷たさ、川底の石の凹凸を体感することができた。

学習内容②：板取川の生態を学ぶ

採取した生物の個体を特定し、名称を知るとともに、実際に水生生物に触れることで、生物に対する理解を深めた。

学習内容③：指標生物から板取川の水質を学ぶ

生息が確認された生物を指標とし、どのくらいきれいな川に生息する生物かを確認するとともに、板取川の水質がどうであるかみんなで話し合った。

【学習結果と考察】

- 採取時間は短かったが、カワゲラ、ヒラタカゲロウなど水質階級Ⅰ（きれい）に属する水生生物が多く確認され、子供たちは板取川は「きれい」との印象を受けていた。
- 特にカワゲラは個体の大きいものを中心に数多く採取され、採取を通して、子供たちは、「場所によってカワゲラの数が違う」、「流れの速い場所にカワゲラが多い」などの特徴を感じ取っていた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 降雨の関係で、総合学習の時間は限られていたが、川虫を見つけ出し、水質階級判定を自ら行うなど、一定の成果が得られたものと思われる。
- この時期のカワゲラウォッチングは初めてであり、カワゲラの量、大きさが夏場と比べても大きく違うため、新しい発見に驚かされた。
- 当日の天気の予想がつきにくく、カワゲラウォッチングの際は、降雨により滑りやすい状況であったため、安全管理に特に注意を払った。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川係	氏名：遠藤協一・奥原常志	電話番号（内線）	３２３

様式①　　（郡上土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	郡上市立牛道小学校	担当教員名	渡辺・日置先生	対象学年・人数	1,2 年生　21 名
実　施　日	５月１７日(金)		実施場所	阿多岐ダム	
テ　ー　マ	阿多岐ダムについて ＝ようこそ　あたぎだむへ＝		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：他人との挨拶、会話を通じてｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを経験

挨拶、話の聞き方、会話を通じて、生徒と土木職員間でのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを経験してもらえた。

学習内容②：約束やﾏﾅｰを守り、集団生活の楽しさを体験

施設見学時の注意事項を説明し、実際生徒も理解してもらえたため、生徒・土木職員がともに楽しく見学会を実施できた。

学習内容③：阿多岐ダムのはたらきについて学ぶ

小学低学年向けの資料などにより阿多岐ダムのはたらきを説明したところ「ダム下流での生活を守ってくれている」ことを認識してもらえた。

学習内容④：阿多岐ダムの内部など施設を見学

堤体からダム湖をみてダムの規模の大きさや堤体内部に入り、温度差など堤体内・外部での違いを実感してもらえた。

【学習結果と考察】

- 今回の対象生徒が小学 1,2 年生ということもあり、まずダム見学を通じて「ｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝの経験」、「ﾏﾅｰを守って集団生活の楽しさを体験」という課題を設定したが、子供たちの反応を見る限り、達成できた。
- 低学年向きの説明により、学校の身近にある阿多岐ダムが自分たちの生活をまもっているということを認識してもらえた。
- 通常入ることのできない堤体内部に入り、ダムの大きさなどを実感してもらえた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 小学 1,2 年生が対象であり、ダムの機能を説明する上で、資料作成、用語の使用について苦労した。
  ただ、学校からの要請でもあった「ｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝの経験」、「ﾏﾅｰを守って集団生活の楽しさを体験」は一定の効果があったと考える。
- 生徒たちが、阿多岐ダムは洪水から下流を守っていることを認識できたとともに、ダムのスケールの大きさを実感することで、一定の効果があったと考える。

備　　考	4 月 30 日(火)牛道小学校で事前打ち合わせ。 岐阜県自然工法管理士　２人参加

記入者	所属：河川係・砂防係	氏名：粟田　圭一、荒引　圭俊、伊藤　祐輔	電話番号（内線）	３４４

様式①　　（郡上土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	郡上市立白鳥小学校	担当教員名	土屋・藤村先生	対象学年・人数	3 年生　53 名
実　施　日	６月１８日(火)		実施場所		阿多岐ダム
テ　ー　マ	阿多岐ダムについて ＝ようこそ　あたぎだむへ＝		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①-1：阿多岐ダムのはたらきを認識する。

小学中学年向けの資料などにより阿多岐ダムのはたらきを説明したところ「ダム下流での生活を守ってくれている」ことを認識してもらえた。

学習内容②-1：阿多岐ダムのスケールを体感する。

堤体からダム湖をみてダムの規模の大きさや堤体内部に入り、温度差など堤体内・外部での違いを実感してもらえた。

習内容①-2：阿多岐ダムのはたらきを認識する。

小学中学年向けの資料などにより阿多岐ダムのはたらきを説明したところ「ダム下流での生活を守ってくれている」ことを認識してもらえた。

学習内容②-2：阿多岐ダムのスケールを体感する。

堤体からダム湖をみてダムの規模の大きさや堤体内部に入り、温度差など堤体内・外部での違いを実感してもらえた。

【学習結果と考察】

- 中学年向きの説明により、学校の身近にある阿多岐ダムが自分たちの生活をまもっているということを認識してもらえた。
- 通常入ることのできない堤体内部に入り、ダムの大きさを実感してもらえた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 生徒たちは、阿多岐ダムが洪水から下流を守っていることを認識できたとともに、ダムのスケールの大きさを実感することで、一定の効果があったと考える。

備　　考	5 月 29 日(水)白鳥小学校で事前打ち合わせ。 岐阜県自然工法管理士　２人参加

記入者	所属：河川係・砂防係	氏名：粟田　圭一、荒引　圭俊、伊藤　祐輔	電話番号（内線）	３４４

様式①　　（郡上土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	郡上市立明宝小学校	担当教員名	山内先生	対象学年・人数	４年生　１３名
実　施　日	９月２０日(金)		実施場所		教室・吉田川(上坂本えん堤)
テ　ー　マ	砂防えん堤と魚道について ＝郡上市明宝の上坂本えん堤＝		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：砂防えん堤と魚道について学ぶ

現地に向かう前に、教室にて砂防えん堤の必要性と魚道についての学習を実施。活発な質問や意見がありました。

学習内容②：吉田川にあるえん堤をバスから確認

上坂本えん堤への道中で、吉田川にあるえん堤にいろいろな魚道があるのを、パンフレットを使って確認しました。

学習内容③：魚道の中の様子を観察

観察窓や箱めがねで、魚道の中の様子を観察。
「お魚いるかなあ？」

学習内容④：魚道のしくみを学ぶ

魚道のしくみについてパネルをつかって説明しました。
「ぐるぐる回りながら上っていくんだぁ。」

【学習結果と考察】

- 学校の身近にある川に多くのえん堤と魚道があることを子供たちは再確認できた。
- 土石流の映像を見ることでその怖さを知り、えん堤の必要性を再認識しました。
- 魚道の構造を知ることで、魚がどのようにして遡上しているのか、魚の道が川の下流から上流まで繋がっていることなどを理解することができた。
- 自分たちの生活が砂防えん堤によって守られていることを理解できた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 事前に映像を使って土石流の様子を見せることで川の怖さを実感し、砂防えん堤の必要性を深く理解させることができた。
- 移動途中のバスの中で、たくさんの砂防えん堤の存在が説明でき、これらのえん堤で自分たちの生活が守られていることを理解してもらうことができた。
- 子供たちに説明を行うことで魚道について、我々も深く理解することができた。

備　　考	8 月 20 日(火) 明宝小学校で事前打ち合わせ。　岐阜県自然工法管理士　１人参加 9 月 12 日(木) 上坂本えん堤（魚道）での現場状況確認（担当教員立会）

記入者	所 属：砂防係	氏 名： 河村雅美・荒引圭俊	電話番号（内線）	３４１

様式①　　（郡上土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	郡上市立和良小学校	担当教員名	猪俣先生	対象学年・人数	５年生　１４名
実　施　日	１１月６日(水)		実施場所		和良小学校
テ　ー　マ	砂防えん堤の役割と 土砂災害に対する備えについて		分　類	治水　・　環境　・　[砂防]　・　[防災]	
			連携機関		

学習内容①：砂防えん堤の役割について学ぶ

土砂災害のビデオにより土石流の恐ろしさと砂防えん堤の役割について学習しました。

学習内容②：土砂災害への対応について

土砂災害の前ぶれや、災害に遭わないための日頃の準備について学習しました。

学習内容③：模型による土石流のしくみを体験

模型を用いて、土石流のしくみや砂防えん堤の効果を学びました。

すべての男子が交替でビーズ土石流を発生させ、えん堤の効果を体験したことで、深く印象に残ったようです。

【学習結果と考察】

- 地元を流れる河川でも、大雨などで土石流が発生することを子供たちが認識した。
- 土石流の映像を見ることでその怖さを知り、えん堤の必要性を学習した。
- 模型実験を通じて土石流の影響と砂防えん堤の効果を理解することができた。
- 自分たちの生活が砂防えん堤によって守られていることや土砂災害に対して日ごろからの備えが大切であることが理解できた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 土石流の映像や模型実験により川の怖さを実感し、砂防えん堤の必要性を深く理解させることができた。
- 土砂災害に対して、日ごろから備えておくべき事柄について理解してもらえた。
- 子供たちに説明を行うことで、土砂災害に対する地域防災の大切さについて再認識でき、防災に繋がる砂防事業の進め方を理解することができた。

備　　考	9 月 30 日(月)　猪俣先生より電話にて総合学習の依頼。 10 月 10 日(木)　和良小学校で事前打ち合わせ。　　岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所 属：砂防係	氏 名：河村雅美・荒引圭俊・矢代照彦	電話番号（内線）	３４１

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

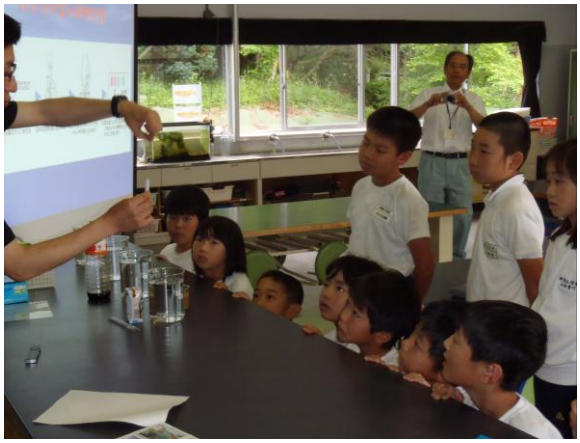
支援学校名	七宗町立神渕小学校	担当教員名	広瀬先生	対象学年・人数	４年生　１２名
実　施　日	６月３日(月)		実施場所	神渕川（神渕小学校前）	
テ　ー　マ	「川をきれいに」 川にすむ生物や水質などを調べて、今の神渕川のすがたを知ってもらう。		分　類	治水　・　[環境]　・　砂防　・　防災	
			連携機関	七宗町農林建設課	

学習内容①：川について学ぶ

プロジェクタを用いて計 26 枚のスライドにより、川にすむ生物のこと、水質と生物の関係などを講義した。

学習内容②：水質を調べる

ＣＯＤパックテストを行い、しょうゆやコーヒーが水質にどう影響するか比較するとともに神渕川の水質を調べた。



学習内容③：カワゲラウォッチング

実際に学校の近くの神渕川に入って生物を採取し、どんなところにどのような生物が棲んでいるのかを学んだ。

学習内容④：カワゲラウォッチング

採取した生物の同定や分類・集計を行い、生物に対する理解を深めた。

【学習結果と考察】

- ごくわずかの汚れであっても、水質には大きく影響することがパックテストを通じて児童にも伝わったと思う。
- 水質や川の上下流等によって棲む生物が異なること等、改めて生物の多様性を印象付けられた。
- 生物調査において様々な生物を採取することができ、思ったよりも種類が多かったことが収穫だった。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 質問も多数寄せられ、積極的な姿勢が印象的だった。
- 自分たちが身近に親しんでいる川であっても、予習をした上で生物を捕まえるという体験は児童にとっても新鮮だったようで、授業の有意義さを感じられた。
- 身近な川であっても、まだまだ興味深い面があることを伝えられたように思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加 子どもたちから感想の手紙をいただきました。【巻末資料 83 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	可児市立広見小学校	担当教員名	丹羽先生	対象学年・人数	５年生　１３７名
実　施　日	６月１８日(火)・７月１０日(水)		実施場所	広見小学校	
テ　ー　マ	「2010 年 7 月 15 日におきた 可児川の災害について」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	可児市防災安全課	

学習内容①：スライドによる説明

H22 年度に洪水被害を受けた地区の小学校において防災学習を行い、当時の被災状況や、今後の災害への備え等について講義した。

学習内容②：スライドによる説明

写真や図面を多用し、理解しやすいよう配慮した。また、児童自身に当時の体験談を語ってもらい、より身近でリアルなものとして浸透を図った。

学習内容③：ハザードマップの作成

同校では班ごとにハザードマップを作成し、全国的なコンクールに応募することとなった。

学習内容④：ハザードマップの作成

作成時には県職員も参加し、説明や助言を行った。

【学習結果と考察】

- 当時の写真や新聞記事を用いて説明し、「何が起きたのか」「なぜ起きたのか」などの理解を深められた。
- 児童が自らの体験を語ることで、自身の行動や意識を再認識してもらうことができた。
- 講義での説明と、自身の体験の振り返り、級友からの発表という 3 つの要素により、効果的に災害や防災のことを学習できたように思う。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 児童も集中して聴講しており、一定の浸透を図れたように思われる。
- 体験談等では自発的・積極的な発言が多く、関心の高さと当時の衝撃の大きさが伺われた。
- ハザードマップの作成を通じ、より身近で具体的なものとして受け止めることができたと思う。

備　　考	6 月 18 日(火)　NHK ニュースにて学習の様子が報道された。 6 月 19 日(水)　岐阜新聞(中濃版)、中日新聞(可児版)に記事が掲載された。【巻末資料 84 頁掲載】 7 月 12 日(金)　ケーブルテレビ可児にて学習の様子が報道された。

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	御嵩町立上之郷小学校	担当教員名	小栗先生	対象学年・人数	5 年生　14 名
実　施　日	６月２０日(木)		実施場所	上之郷小学校	
テ　ー　マ	「2011 年 9 月 20 日に 御嵩町でおきた災害について」		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関		

学習内容①：　スライドによる説明

H23 年度に土砂災害の被害を受けた地区の小学校において防災学習を行い、当時の状況の説明や、今後の災害への備え等について講義した。

学習内容②：スライドによる説明

プロジェクタを利用し計 40 枚のスライドにより講義した。当時の写真や図面を多用し、児童が理解しやすいよう配慮した。

学習内容③：児童からの体験談などの発表

自分自身や家族の体験談や、そこから学んだ点などを自発的に発表してもらい、より身近でリアルな事例を共有することができた。

学習内容④：御嵩町のハザードマップ等の紹介

御嵩町の土砂災害ハザードマップや土砂災害警戒情報のパンフについて紹介し、各家庭でも活用してもらうよう呼びかけた。

【学習結果と考察】

- 当時の写真や記事を用いて「何が起きたのか」「なぜ起きたのか」などの理解を進められた。
- 災害時の情報収集や避難方法について説明でき、児童の防災意識を高められた。
- 児童が自らの体験を語ることで、自身の行動や意識を再認識し今後に活かす。
- 講義での説明と、自身の体験の振り返り、級友の発表という 3 つの要素により、効果的に災害や防災のことを学習できたように思われる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 児童も集中して聴講しており、一定の浸透を図れたように思われる。
- 同校は県の防災教育モデル校に指定されており、今回の企画も適時であった。
- 教諭からも高い評価が得られ、今回の資料を今後の研究授業等で活用したいと申し出があった。
- 次年度以降も、災害が発生した地区の小学校において慣例的に実施するようにしたい。

備　　考	6 月 27 日(木)　中日新聞（可児版）に記事が掲載された。【巻末資料 83 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	川辺町立川辺西小学校	担当教員名	後藤先生	対象学年・人数	５年生　４９名
実　施　日	７月８日(月)		実施場所	雄鳥川（川辺町中川辺）	
テ　ー　マ	「川をきれいに」 川にすむ生物や水質などを調べて、今の神渕川のすがたを知ってもらう。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	県中濃振興局環境課、 川辺町産業環境課	

学習内容①：水質を調べる

ＣＯＤパックテストを児童自身が行い、お茶やコーヒー等が少量でもいかに水質に影響するか調べた他、雄鳥川の水質を調べた。

学習内容②：カワゲラウォッチング

学校の近くの雄鳥川に入って生物を採取し、どんなところにどのような生物が棲んでいるのかを学んだ。

学習内容③：カワゲラウォッチング

学校の近くの雄鳥川に入って生物を採取し、どんなところにどのような生物が棲んでいるのかを学んだ。

学習内容④：カワゲラウォッチング

採取した生物の同定や分類・集計を行い、生物に対する理解を深めた。

【学習結果と考察】

- パックテストを通じ、ごくわずかの汚れであっても水質が大きく影響されることが伝わったように思う。
- 生物調査では様々な生物を採取でき、種類の多さ等については想像以上だった模様。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 生物採取の際に仲間で協力しあうシーンも見られる等、様々な効果があったと思う。
- 自分たちの身近にある川でも、視点を変えたり探し方を変えればさらに興味深いものだと伝えられたと思う。

備　　考	子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 85 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	八百津町立潮見小学校	担当教員名	奥村先生	対象学年・人数	3・4年生　3名
実　施　日	７月１１日(木)		実施場所	名場居川（八百津町潮見）	
テ　ー　マ	「川をきれいに」 川にすむ生物や水質などを調べて、名場居川のすがたを知ってもらう。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	県中濃振興局環境課（※主催）	

学習内容①：川について学ぶ

ＣＯＤパックテストを児童自身が行い、お茶やコーヒー等が少量でもいかに水質に影響するか調べた他、名場居川の水質を調べた。

学習内容②：水質を調べる

川に入って生物を採取し、どんなところにどのような生物が棲んでいるのかを学んだ。

学習内容③：カワゲラウォッチング

当箇所では生物の種類も数も多く観察された。

学習内容④：カワゲラウォッチング

採取した生物の同定や分類・集計を行い、生物に対する理解を深めた。途中からは1･2年生の児童も参加した。

【学習結果と考察】

- パックテストを通じ、ごくわずかの汚れであっても水質が大きく影響されることが伝わったと思う。
- 水質や川の形状等によって住む生物が異なること等、改めて生物の多様性を印象付けられた。
- 生物調査では様々な生物を採取でき、種類の多さ等については児童の想像以上だった模様。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 生物採取の際に仲間で協力しあうシーンも見られる等、様々な効果があったと思う。
- 自分たちの身近には豊かな川があることを初めて認識した児童が多く、その点でも有意義だった。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	美濃加茂市立太田小学校	担当教員名	伊佐治先生	対象学年・人数	４年生　１１２名
実　施　日	９月２６日(木)		実施場所		太田小学校
テ　ー　マ	「昭和 58 年 9 月 28 日におきた 木曽川の洪水について」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　スライドによる説明

昭和 58 年に洪水被害を受けた小学校にて、被災から 30 年を機に防災学習を行い、当時の状況の説明や今後の災害への備え等について講義した。

学習内容②：校長先生による当時の体験談

プロジェクタを利用し、当時と現在の写真を比較するなど講義した。当時近くに住んでおられた校長先生からも体験談を伺った。

学習内容③：児童の保護者らの体験談

事前に保護者へのアンケートを行い、その情報を講義資料に活用した。また、当時の体験談を児童に紹介してもらった。

学習内容④：児童の保護者らの体験談

家族の体験談等を自発的に発表してもらうことで、より身近でリアルな事例として認識してもらうことができた。

【学習結果と考察】

- 当時の写真や新聞記事を用いて「何が起きたのか」「なぜ起きたのか」などの理解を深められた。
- 保護者へのアンケートを通じて、各家庭内で被害や対策について話し合ってもらうことができたと思う。
- 児童が自ら体験談を語ることで、児童自身も級友もより身近でリアルなものとして受け止められたように思う。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 児童も集中して聴講し、意見交換も活発に行われたので、一定の浸透を図れたように思われる。
- 洪水の記録や写真が残されていたため、資料として有効に活用することができた。
- 今回、被災から 30 年を機に初めて開催したが、今後も定期的にこうした場を設けるとよいと思う。

備　　考	10 月 6 日(日)中日新聞(岐阜版)に記事が掲載された。【巻末資料 86 頁掲載】 10 月 16 日(水)建通新聞(中部)に記事が掲載された。【巻末資料 86 頁掲載】 子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 87 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（可茂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	坂祝町立坂祝小学校	担当教員名	先生	対象学年・人数	４年生　６０名
実　施　日	９月２７日(金)		実施場所	坂祝小学校	
テ　ー　マ	「昭和 58 年 9 月 28 日におきた 木曽川の洪水について」		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　スライドによる説明

昭和 58 年に洪水被害を受けた小学校にて、被災から 30 年を機に防災学習を行い、当時の状況の説明や今後の災害への備え等について講義した。

学習内容②：スライドによる説明

プロジェクタを利用し、当時と現在の写真を比較するなど講義した。

学習内容③：児童の保護者らの体験談の発表

事前に保護者へのアンケートを行い、その情報を講義資料に活用した。また、当時の体験談を児童に紹介してもらった。

学習内容④：児童の保護者らの体験談

家族の体験談等を自発的に発表してもらうことで、より身近でリアルな事例として認識してもらうことができた。

【学習結果と考察】

- 当時の写真や新聞記事を用いて「何が起きたのか」「なぜ起きたのか」などの理解を深められた。
- 保護者へのアンケートを通じて、各家庭内で被害や対策について話し合ってもらうことができたと思う。
- 児童が自ら体験談を語ることで、児童自身も級友もより身近でリアルなものとして受け止められたように思う。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 児童も集中して聴講しており、一定の浸透を図れたように思われる。
- 洪水の記録や写真が残されていたため、資料として有効に活用することができた。
- 今回、被災から 30 年を機に初めて開催したが、今後も定期的にこうした場を設けるとよいと思う。

備　　考	10 月 6 日(日)中日新聞(岐阜版)に記事が掲載された。【巻末資料 86 頁掲載】 10 月 16 日(水)建通新聞(中部)に記事が掲載された。【巻末資料 86 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　一郎	電話番号（内線）	３２４

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立池田小学校	担当教員名	伊藤先生	対象学年・人数	４年生　４９名
実　施　日	５月１５日(水)		実施場所		大原川（宝親水公園）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 大原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：大原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物がどのような場所にいるのか、また川の形状はどうなっているのか、どのような場所が危険なのかを実際に体験しながら学んだ。

学習内容②：大原川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。

学習内容③：大原川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごとに分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを学んだ。

学習内容④：川の危険性について

雨が降ると川の水が急激に増えて危険であるため、雨のときは川に近付くべきではないことを学んだ。また治水の必要性についても学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　7.5
- 透視度　55
- ＣＯＤ　11
- 採取した水生生物 18 種

オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ、アブラハヤ、タモロコ、カマツカ、アカザ・アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ、サワガニ、ヒラタドロムシ、ハグロトンボ・ギンヤンマ、ヒゲナガカワトビケラ、ヒル、サカマキガイ、ウシガエル、ツチガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 子供達が流速の早い所や、深い所に行かないように気を配った。
- 子供達は積極的に総合学習に取り組んでおり、川に対して興味をもってもらえたと思われる。
- 写真などを用いて自然環境を守ることも大事だが護岸工も人の命や財産を守るために必要不可欠なものであることを伝えた。しかし、子供たちにも分かる言葉で説明するのに苦労した。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立根本小学校	担当教員名	浅見先生	対象学年・人数	４年生１１７名
実　施　日	５月２３日(木)		実施場所	大原川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 大原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：大原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物はどんな所にすんでいるか、どのように捕まえるのか、河の形状はどうなっているか、危険な個所はどこか等を実際に自ら体験することで学んだ。

学習内容②：大原川の危険性について

川は急に深くなったり、水が増加したりする場合があり、危険であるため子供たちだけではなく、必ず大人同伴で遊ぶ必要があることを学んだ。

学習内容③：大原川の生態を学ぶ

大原川で採取した水生生物を分類し、それぞれの特徴と、数を把握することにより、自分達の身近な川である大原川の生態系がどのようであるかを学んだ。

学習内容④：大原川の水質を知る

大原川に住んでいる水生生物の種類と、川から採取した水のｐＨ、ＣＯＤ、透視度から大原川はきれいなのか、汚いのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　　7.0
- 透視度　　70
- ＣＯＤ　　13
- 採取した水生生物 11 種

オイカワ・カワムツ・ドジョウ・カワヨシノボリ・コリドラスの仲間・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・コオニヤンマ・ハグロトンボ・シオカラトンボ・ヒル類

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 上流側と下流側の２箇所に分かれて行ったため、子供たちを見落とすことがないように注意した。
- 昨年の台風による、川の増水の様子等の写真を見せながら、河川工事の必要性を子供たちに分かりやすいように説明した。
- 子供達は楽しそうに学習に取り組んでおり、川への親しみを持ってくれたと思われる。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立根本小学校	担当教員名	浅見先生	対象学年・人数	４年生１１７名
実　施　日	９月２５日(水)		実施場所	大原川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 大原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：大原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物はどんなところに生息しているのか、また、川の水質や形状、危険な箇所はどこなのか、実際に自らが体験することで学ぶ。

学習内容②：川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：大原川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごとに分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを学んだ。

学習内容④：大原川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。

【学習結果】

- ｐＨ　　6.5
- 透視度　　77.5
- ＣＯＤ　　10
- 採取した水生生物 12 種

オイカワ・カワムツ・アブラハヤ・タモロコ・ドジョウ・カワヨシノボリ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・サワガニ・コオニヤンマ・ガガンボ・ウシガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 流速が早い箇所があり、子ども達が足をすくわれて転倒しないように気を配った。
- 川幅が狭いためタモを杖にして歩くように促した。
- 魚を捕まえたときの子供たちの笑顔が印象的だった。自然や川に対して興味を持ってもらえたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立昭和小学校	担当教員名	戸倉先生	対象学年・人数	３年生　５０名
実　施　日	５月２８日(火)		実施場所	笠原川（土岐川合流点）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 笠原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：笠原川とのふれあい方を学ぶ

以前総合学習を行ったときと比べて、川の形状がどう変わっているか、生息している水生生物は以前と比べてどうか等を、実際に体験することで学んだ。

学習内容②：笠原川の危険性について

流れが緩やかで安全そうに見える川であっても、雨が降ったりすると、急に流れが速くなり水位が上がるため注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：笠原川の生態を学ぶ

実際に採取した水生生物を分類し、それぞれの特徴や数を知ることで、自分達の身近な川である笠原川にどのような生物がどれぐらいいるかを学んだ。

学習内容④：笠原川の水質を知る

大原川のｐＨ、ＣＯＤ、透視度の値と、住んでいる水生生物の種類の二つの観点から笠原川がきれいなのか、汚いのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　　8.0
- 透視度　　60
- ＣＯＤ　　8
- 採取した水生生物　12 種

カワムツ・カワヨシノボリ・メダカ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・コオニヤンマ・コヤマトンボ・ハグロトンボ・コシボソヤンマ・ヒル・ヒラタドロムシ・アメンボ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 気温が低いため、服の着替えを促すなど子供達の体調管理に注意した。
- 自然を大切にすることも大事だが、それと同時に人の命や財産を守ることも大事であり、そのために工事は必要であるということを子供たちに分かりやすい言葉で説明した。
- 積極的に学習に参加する様子が見て取れ、川への関心を持ってくれたことを伺えた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：塚田　正俊	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立精華小学校	担当教員名	曲直瀬先生	対象学年・人数	５年生１３６名
実　施　日	６月５日(水)		実施場所	大原川（宝町親水公園）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 大原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：大原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物の捕まえ方のコツや、魚の生息箇所、大原川の危険個所（水深が深くなる場所等）を実際に川に入り体験することで学んだ。

学習内容②：川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：大原川の生態を学ぶ

大原川にはどんな生物がすんでいるのか、名前や特徴とともに学んだ。また川を大切にすることの重要性を学んだ。

学習内容④：大原川の水質を知る

大原川のｐＨ、透視度、ＣＯＤ、生息する水生生物の種類から自分たちの身近な川である大原川がきれいなのか、汚いのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　7.0
- 透視度　70
- ＣＯＤ　8
- 採取した水生生物 19 種

オイカワ・カワムツ・カマツカ・メダカ・カワヨシノボリ・オオクチバス・アカザ・メダカ・ミナミヌマエビ・スジエビ・ハグロトンボ・ヒゲナガカワトビケラ・アメンボ・シマアメンボ・ウシガエル・ツチガエル・カワニナ・モノアラガイ・サカマキガイ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 子供たちが水深の深い所や流速の速い所に行かないように誘導した。
- 気温が高く、日差しが強かった。そのため子供たちが熱中症にならないように、時間になったらすぐに川から上がるように呼びかけた。
- 子供たちは嬉々として総合学習に取り組んでおり、川に対する好奇心を抱いてもらえたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　知也	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立南姫小学校	担当教員名	三島先生	対象学年・人数	４年生３４名
実　施　日	６月１１日(火)		実施場所	姫川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 姫川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：姫川とのふれあい方を学ぶ

川に入る時の注意点、タモの扱い方や水生生物の捕まえ方等を事前の説明で学び。実際に川に入り自ら体験することで、川での楽しみ方を学んだ。

学習内容②：川の危険性について

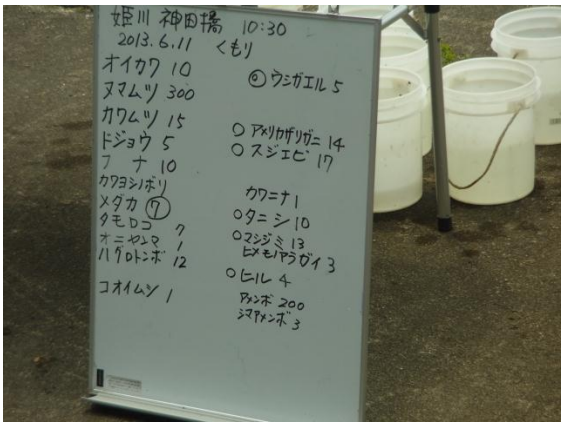
雨が降ると急に川の水が増えて危険であること、工事を行っている所は重機が倒れてきたりして危険であること等を、パネルを見ながら学んだ。

学習内容③：姫川の生態を学ぶ

自分たちの住んでいる川に生息する水生生物の名称や、特徴、地元での呼び方などを写真や、実際に採取した生物を見ながら学んだ。

学習内容④：姫川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。



【学習結果】

- ｐＨ　6.5
- 透視度　80.5
- ＣＯＤ　11
- 採取した水生生物 22 種

オイカワ・カワムツ・ヌマムツ・フナの仲間・タモロコ・ドジョウ・カワヨシノボリ・メダカ・スジエビ・アメリカザリガニ・オニヤンマ・ハグロトンボ・コオイムシ・ヒル類・カワニナ・タニシ・マシジミ・ヒメモノアラガイ・アメンボ・シマアメンボ・ウシガエル・トノサマガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 河床がコンクリートになっており滑りやすいので注意を促すなど、転倒防止に努めた。
- 治水や利水の重要性を分かりやすい言葉で伝えることに苦労した。子供達は真剣な表情で聞いており、理解をしてくれたと思う。
- また親と川に遊びにくる等、積極的に川で遊ぼうとする声があり、今回の総合学習の成果を感じた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１名参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立南姫小学校	担当教員名	三島先生	対象学年・人数	４年生　３４名
実　施　日	６月２８日(金)		実施場所	姫川（安楽寺付近）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 姫川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：姫川とのふれあい方を学ぶ

以前総合学習を行ったときと比べて、川の形状がどう変わっているか、生息している水生生物は以前と比べてどうか等を、実際に体験することで学んだ。

学習内容②：姫川の危険性について

流れが緩やかで安全そうに見える川であっても、雨が降ったりすると、急に流れが速くなり水位が上がるため注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：姫川の生態を学ぶ

実際に採取した水生生物を分類し、それぞれの特徴や数を知ることで、自分達の身近な川である姫川にどのような生物がどれぐらいいるかを学んだ。

学習内容④：姫川の水質を知る

大原川のｐＨ、ＣＯＤ、透視度の値と、棲んでいる水生生物の種類の二つの観点から姫川がきれいなのか、汚いのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　6.5
- 透視度　50
- ＣＯＤ　10
- 採取した水生生物 17 種

カワムツ・タモロコ・フナ類・カワヨシノボリ・ヒメダカ アメリカザリガニ・ハグロトンボ・コオイムシ・ガムシの仲間・ウシガエル・トノサマガエル・モノアラガイ・サカマキガイ・カワニナ・ヒル・アメンボ・マツモムシ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 気温が低いため、服の着替えを促すなど子供達の体調管理に注意した。
- 自然を大切にすることも大事だが、それと同時に人の命や財産を守ることも大事であり、そのために工事は必要であるということを子供たちに分かりやすい言葉で説明した。
- 積極的に学習に参加する様子が見て取れ、川への関心を持ってくれたことが伺えた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　　１名参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：塚田　正俊	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立滝呂小学校	担当教員名	水野先生	対象学年・人数	５年生　９０名
実　施　日	６月１３日(木)		実施場所	笠原川（滝呂橋付近）	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 笠原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：笠原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物はどんなところに生息しているのか、また、川の水質や形状、危険な箇所はどこなのか、実際に自らが体験することで学ぶ。

学習内容②：川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：笠原川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごとに分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを学んだ。

学習内容④：笠原川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。

【学習結果】

- ｐＨ　　8.0
- 透視度　　60
- ＣＯＤ　　10
- 採取した水生生物 16 種

オイカワ・カワムツ・ドジョウ・カワヨシノボリ・メダカ・ミナミヌマエビ・スジエビ・サワガニ・コオニヤンマ・ハグロトンボ・オナガサナエ・コヤマトンボ・アメンボ・シマアメンボ・クロスジヘビトンボ・オタマジャクシ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 流速が早い箇所があり、子ども達が足をすくわれて転倒しないように気を配った。
- 子供たちにも、分かりやすい言葉で説明するのに苦労した質問形式にすることにより、治水について興味を持ってもらえたと思う。
- とても楽しそうに総合学習に取り組んでおり、川への興味を持ってもらえたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　知也	電話番号（内線）	３１９

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立滝呂小学校	担当教員名	日下部先生	対象学年・人数	２年生１２７名
実　施　日	８月３０日(金)		実施場所	笠原川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 笠原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：笠原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物の捕まえ方のコツや、魚の生息箇所、笠原川の危険箇所（水深が深くなる場所等）を実際に川に入り体験することで学んだ。

学習内容②：川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：笠原川の生態を学ぶ

笠原川にはどんな生物がすんでいるのか、名前や特徴とともに学んだ。また川を大切にすることの重要性を学んだ。

学習内容④：笠原川の水質を知る

笠原川のｐＨ、透視度、ＣＯＤ、生息する水生生物の種類から自分たちの身近な川である笠原川がきれいなのか、汚いのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　　7.2
- 透視度　　60
- ＣＯＤ　　6.5
- 採取した水生生物 15 種

オイカワ、カワムツ、モツゴ、フナ、コイ、ドジョウ、カワヨシノボリ・ミナミヌマアエビ、アメリカザリガニ、スジエビ、サワガニ、コオニヤンマ・ギンヤンマ、コヤマトンボ、ヒゲナガカワトビケラ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 子供たちが水深の深い所や流速の速い所に行かないように誘導した。
- 気温が高く、日差しが強かった。そのため子供たちが熱中症にならないように、時間になったらすぐに川から上がるように呼びかけた。
- 子供たちは嬉々として総合学習に取り組んでおり、川に対する好奇心を抱いてもらえたと思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：加藤　知也	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	多治見市立市之倉小学校	担当教員名	小池先生	対象学年・人数	４年生　４２名
実　施　日	７月２日(火)		実施場所		市之倉川(市之倉小学校付近)
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 市之倉川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：市之倉川とのふれあい方を学ぶ

水生生物はどんなところに生息しているのか、また、川の水質や形状、危険な箇所はどこなのか、実際に自らが体験することで学ぶ。

学習内容②：川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：市之倉川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごとに分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを学んだ。

学習内容④：市之倉川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。

【学習結果】

- ｐＨ　7.0
- 透視度　65
- ＣＯＤ　7
- 採取した水生生物 14 種

オイカワ・カワムツ・ヌマムツ・カワヨシノボリ
ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・サワガニ・コオニヤンマ・ハグロトンボ・ヘビトンボ・ヒゲナガカワトビケラ・ガガンボ・アメンボ・ウシガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 流速が早い箇所があり、子ども達が足をすくわれて転倒しないように気を配った。
- 川幅が狭いためタモを杖にして歩くように促した。
- 魚を捕まえたときの子供たちの笑顔が印象的だった。自然や川に対して興味を持ってもらえたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	土岐市立鶴里小学校	担当教員名	長谷川先生	対象学年・人数	４年生　１０名
実　施　日	５月２４日(金)		実施場所		妻木川(国道３６３号線付近)
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 妻木川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：妻木川とのふれあい方を学ぶ

川で行動する際の注意点、タモの扱い方、魚を捕まえるコツなどを学習した。また河川内に魚道があったため、その役割等について学んだ。

学習内容②：妻木川の生態を学ぶ

妻木川に入り、どのような場所に魚がいるのか、水質はどうなのか、川の形はどうなのか、どのような場所が危険なのかを、実際に体験しながら学んだ。

学習内容③：妻木川の水質を知る

生息していた水生生物の種類と、妻木川の水のｐＨ、透視度、ＣＯＤの結果の両方の観点から、妻木川がきれいなのかどうかを学んだ。

学習内容④：川の危険性について

普段安全そうに見える川でも、雨などの天候によって急に水が増えたりするため危険であることを、実際の洪水時の写真を見ながら学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　　7.0
- 透視度　　53
- ＣＯＤ　　8
- 採取した水生生物 12 種

カワムツ・アブラハヤ・カワヨシノボリ・ドジョウ
ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ ・サワガニ・オニヤンマ・コオニヤンマ・ハグロトンボ・カワニナ・トノサマガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 橋げたの部分が掘れていて深く危険であったため、子供たちがそこに入らないように気を付けた。
- 自然環境を守ることも大切だが、同様に生命と財産を守る河川事業や砂防事業も重要であるということを災害により被災した施設の写真を用いて訴えたが、子供たちにわかりやすい言葉で伝えるということに苦労した。
- 子供達に魚の捕まえ方等をアドバイスでき川に興味をもってもらえたと思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：浅野　智仁	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	土岐市立鶴里小学校	担当教員名	長谷川先生	対象学年・人数	４年生　１１名
実　施　日	６月５日（水）		実施場所		妻木川（国道３６３号線付近）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 妻木川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：妻木川とのふれあい方を学ぶ

水生生物の生息箇所、捕まえ方、河川の形状、河川の危険箇所等について、実際に河川に入って、自ら経験することで学んだ。

学習内容②：妻木川の危険性について

近年、局地的かつ短時間に大量の雨が降る、いわゆるゲリラ豪雨が多発する傾向にあり、どんな川でも天候には十分注意する必要があることを学んだ。

学習内容③：妻木川の生態を学ぶ

採取した水生生物を分類し、それぞれの名称や特徴を学ぶことで、自分達の身近な川にどんな生物がどれぐらいの数いるのかを知った。

学習内容④：妻木川の水質を知る

川で採取した水のｐＨ、ＣＯＤ、透視度と妻木川に生息している水生生物の種類から妻木川がきれいなのか、汚いのかを判断した。

【学習結果】

- ｐＨ　7.0
- 透視度　100 以上
- ＣＯＤ　7
- 採取した水生生物 14 種

カワムツ・アブラハヤ・カワヨシノボリ・ドジョウ・シマドジョウ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・サワガニ・コオニヤンマ・コシボソヤンマ・コヤマトンボ・ハグロトンボ・カワニナ・トノサマガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 滑りやすい箇所があり、子供たちが怪我をしないように気を配った。
- 私たちの行っている工事は、人の命や財産を守るために必要であることを、写真を示すなどして子供たちに分かりやすいように説明した。
- 子供たちは嬉々として総合学習に取り組んでおり、川に対する好奇心を抱いてもらえたと思う。

備　　考	6 月 7 日（金）中日新聞（東濃版）に記事が掲載された。【巻末資料 88 頁掲載】 6 月 6 日（木）岐阜新聞（東濃版）に記事が掲載された。【巻末資料 88 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	土岐市立肥田小学校	担当教員名	小栗先生	対象学年・人数	３年生　６６名
実　施　日	９月１２日（木）		実施場所	肥田川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 肥田川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：肥田川とのふれあい方を学ぶ

どのようにすれば水生生物がとれるのか、肥田川の水質や水温、危険な箇所等について、実際に川に入り自ら体験することで学んだ。

学習内容②：川の危険性について

今いる場所で雨が降っていなくても、上流で降った雨によって、川の水が急激に増えることがあるため、注意する必要がある等川に潜む危険性について学んだ。

学習内容③：肥田川の生態を学ぶ

捕まえた水生生物を集計し、水生生物の名称と特徴を知ることにより、自分たちの身近な川にはどのような生物がどれぐらいいるのかを学んだ。

学習内容④：肥田川の水質を知る

川の水を採取し、ＰＨおよびＣＯＤ、透視度を調べた。その結果と川に住んでいる水生生物の種類の２つの視点から自分たちの川の水質がどのようなものなのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　　6.5
- 透視度　　60
- ＣＯＤ　　8
- 採取した水生生物 11 種

オイカワ・カワムツ・アブラハヤ・ドジョウ・カワヨシノボリ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・コオニヤンマ・コヤマトンボ・オナガサナエ・タニシ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 子供達一人一人に目が行き届き、安全に学習を進めることができた。
- 河川工事は、人の命や財産を守る上でなくてはならないものであると言うことを写真等で説明した。難しい言葉を使わない等子供達に伝わるように話すことに苦労した。
- 意欲的に川で水生生物を捕まえる姿が見て取れ、川に対する興味を持ってもらえたように思えた。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞浪市立釜戸小学校	担当教員名	佐々木先生	対象学年・人数	５年生　３１名
実　施　日	７月１０日（水）		実施場所		土岐川（駅前大橋付近）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 土岐川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類		治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災
			連携機関		多治見市土岐川観察館

学習内容①：土岐川とのふれあい方を学ぶ

どのようにすれば水生生物がとれるのか、土岐川の水質や水温、危険な箇所等について、実際に川に入り自ら体験することで学んだ。

学習内容②：川の危険性について

今いる場所で雨が降っていなくても、上流で降った雨によって、川の水が急激に増えることがあるため、注意する必要がある等、川に潜む危険性について学んだ。

学習内容③：土岐川の生態を学ぶ

捕まえた水生生物を集計し、水生生物の名称と特徴を知ることにより、自分たちの身近な川にはどのような生物がどれぐらいいるのかを学んだ。

学習内容④：土岐川の水質を知る

川の水を採取し、ｐＨおよびＣＯＤ、透視度を調べた。その結果と川に住んでいる水生生物の種類の２つの視点から自分たちの川の水質がどのようなものなのかを学んだ。

【学習結果】

- ｐＨ　6.5
- 透視度　100
- ＣＯＤ　13
- 採取した水生生物 17 種

オイカワ・カワムツ・アブラハヤ・ドジョウ・シマドジョウ・カワヨシノボリ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・サワガニ・マシジミ・タニシ・モノアラガイ・ヒラタドロムシ・ハグロトンボ・ヒゲナガカワトビケラ・トノサマガエル・ウシガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 比較的少人数であったため、子供達一人一人に目が行き届き安全に学習を進めることができた。
- 河川工事は、人の命や財産を守る上でなくてはならないものであると言うことを写真等で説明した。難しい言葉を使わない等子供達に伝わるように話すことに苦労した。
- 意欲的に川で水生生物を捕まえる姿が見て取れ、川に対する興味を持ってもらえたように思えた。

備　　考	7 月 13 日(土)中日新聞(東濃版)に記事が掲載された。【巻末資料 89 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞浪市立日吉小学校	担当教員名	加藤先生	対象学年・人数	５年生　１１名
実　施　日	７月１０日(火)		実施場所		白倉川（日吉小学校付近）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 日吉川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：白倉川とのふれあい方を学ぶ

水生生物を捕まえるにはどのような場所をさがせば良いか、川の中で危険な場所とはどこか、川の形状がどうなっているかを実際に川に入って体験した。

学習内容②：川の危険性について

子供だけで川に入ると危険なため必ず大人と入る必要があること。雨が降ると水位が急激に上がるため、川に近づかないこと等を学んだ。

学習内容③：白倉川の生態を学ぶ

捕まえた水生生物を種類ごとに分け、写真や実物を見ながら、水生生物の名称や特徴を知り、どんな生物が自分たちの身近な川に住んでいるかを学んだ。

学習内容④：白倉川の水質を知る

白倉川の透視度、ｐＨ、ＣＯＤを調べ、川に生息している水生生物の種類と合わせて、身近な川がどの程度きれいかを考えた。

【学習結果】

- ｐＨ　　8.0
- 透視度　　80
- ＣＯＤ　　7
- 採取した水生生物 12 種

カワムツ・カワヨシノボリ・ドジョウ・サワガニ・コオイムシ・ウシガエル・トノサマガエル・ガガンボ・アメンボ・ガムシ・カワニナ・マツモムシ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 子供たちが少人数だったため、目が行き届き安全に総合学習を行えた。
- 河川にある構造物が私たちの命や財産を守る役割を果たしているということを、写真を用いながら説明した。子供たちにも分かるような言葉で説明することに苦労した。
- 夢中で水生生物を捕まえており、楽しみながら学習することができていたように思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞浪市立瑞浪小学校	担当教員名	中村先生	対象学年・人数	５年生　８２名
実　施　日	７月１１日(木)		実施場所		万尺川（瑞浪中央公園付近）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 万尺川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：万尺川とのふれあい方を学ぶ

水生生物がいる場所や魚を捕まえるコツ、川の形状や水質、どんな場所が危険なのかを実際に川に入ることによって学んだ。

学習内容②：川の危険性について

近年の豪雨により被災した箇所の写真を見ることで、護岸や堤防の重要性を学んだ。

学習内容③：万尺川の生態を学ぶ

万尺川にはどんな魚がいるのかを、採取した魚を種類ごとに分け、その名前と特徴について学んだ。

学習内容④：万尺川の水質を知る

川で採水した水のｐＨ、透視度、ＣＯＤを調べ結果発表した。水質の結果と、生息していた水生生物の種類との両方から、川がどの程度きれいなのか考えた。

【学習結果】

- ｐＨ　　8.5
- 透視度　　91
- ＣＯＤ　　10
- 採取した水生生物 12 種

オイカワ・カワムツ・ドジョウ・カワヨシノボリ
ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・ハグロトンボ・アメンボ・マシジミ・カワニナ・トノサマガエル・ウシガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 川幅が狭く、足場が悪い所があったため、子供たちがけがをしないように気を配った。
- 川の楽しさと同時に恐ろしさを学び、治水の大切さを理解してくれたと思う。
- 子供達は懸命に総合学習に取り組んでおり、川に対する興味を持ってくれたと思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：塚田　正俊	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞浪市立瑞浪小学校	担当教員名	中村先生	対象学年・人数	５年生　８３名
実　施　日	７月１１日(木)		実施場所		万尺川（瑞浪中央公園付近）
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 万尺川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：万尺川とのふれあい方を学ぶ

水生生物を上手に捕獲するために、タモの使い方や、水生生物の多く存在する場所等を学んだ。また怪我をしたり、風邪をひかないように川での注意点を学んだ。

学習内容②：川の危険性について

川は普段は楽しい場所だが、雨が降ったりすると急に水位が上がり流れが速くなるので危険であるため、雨の時は川に近付かないようにすることを学んだ。

学習内容③：万尺川の生態を学ぶ

捕獲した水生生物の特徴を知り、自分たちの身近な川にどのような生物が、どれくらい棲んでいるのかを学んだ。

学習内容④：万尺川の水質を知る

万尺川の水のｐＨ、ＣＯＤ、透視度と、万尺川に生息している生物の種類の二つの観点から、万尺川の水がきれいなのか汚いのかを調べる。

【学習結果】

- ｐＨ　　7.5
- 透視度　　70
- ＣＯＤ　　10
- 採取した水生生物 11 種

オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ、ドジョウ、メダカ、ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ、コオニヤンマ、ハグロトンボ、アメンボ、ウシガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 川幅が狭く足場も悪いため、子供たちが怪我をしないように注意した。
- 河川工事は、人の命や財産を守る上で欠かせないことであることを伝えた。子供達は真剣に聞いており工事の重要性を理解してくれたと思う。
- 楽しそうに学習に参加する子供たちを見ることができた。川への興味を持ってくれたように思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	瑞浪市立土岐小学校	担当教員名	島原先生	対象学年・人数	５年生　６２名
実　施　日	９月１３日(金)		実施場所		土岐川
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 土岐川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：土岐川とのふれあい方を学ぶ

河川の形状や水生生物の多く棲む場所、水生生物の捕獲方法を学び、実際に自ら川に入って体験することで、川で遊ぶことの楽しさを知った。

学習内容②：土岐川の危険性について

普段浅くて流れの緩やかな川であっても、雨が降ると、急激に水位が増加し、流れが速くなることがあるため、雨が降りそうな時は川に近づかないこと等を学んだ。

学習内容③：土岐川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごとに分け、どんな特徴の水生生物が、どれぐらいの数いるのかを把握し、自分達の身近な川の生態系について学んだ。

学習内容④：土岐川の水質を知る

土岐川の水を採取し、ｐH、COD、透視度について調べると同時に、水生生物の生息状況を調べ、２つの観点から土岐川がきれいなのか、汚いのかを判断した。

【学習結果】

- ｐＨ　　7.5
- 透視度　　70
- ＣＯＤ　　6.5
- 採取した水生生物 16 種

オイカワ・カワムツ・アブラハヤ・ドジョウ・シマドジョウ・カワヨシノボリ・オオクチバス・アカザ・メダカ・ミナミヌマエビ・ヒゲナガカワトビケラ・ヒラタドロムシ・アメリカザリガニ・コオニヤンマ・マシジミ・ツチガエル

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 護岸や魚道、水路についてそれぞれの役割を説明することで、私たちの行っている工事は必要なものであり、自然環境のことも考えながら行っていることを伝えた。子供たちに分かる言葉を選んで説明することに苦労した。
- 今度は親と一緒に来る等、今回の学習を通して川への関心が高まったことが見て取れた。
- 子供達が危険な状況にならないように、一人一人に目を配るように努めた。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（多治見土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	名古屋市立稲西小学校	担当教員名	江森先生	対象学年・人数	３年生　４５名
実　施　日	１０月２日(水)		実施場所	笠原川	
テ　ー　マ	「河川環境を学ぶ」 笠原川の現状や川とのふれあい方を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	多治見市土岐川観察館	

学習内容①：笠原川とのふれあい方を学ぶ

水生生物がどんな所にいるのか、どのようにしたら捕まえられるのか。河川の形状はどうなっているか、危険な場所はどこか等を実際に体験しながら学んだ。

学習内容②：笠原川の危険性について

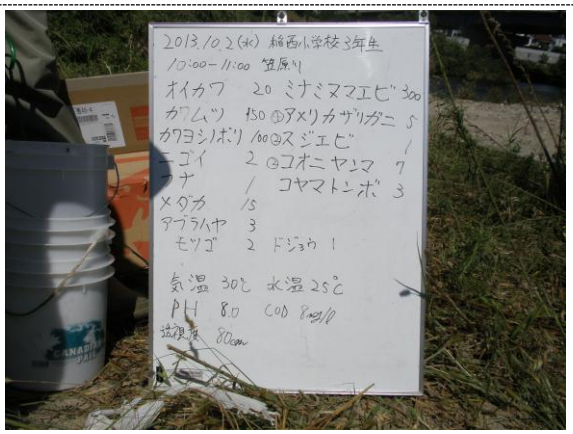
雨が降ると川の水が急激に増えて流れも速くなるため危険であるため、雨の時は川に近づかないようにすることを写真を見ながら学んだ。

学習内容③：笠原川の生態を学ぶ

自分達の身近な川にはどんな特徴の生物が、どれぐらいの量いるのかを、実際に採取した生物を分類し、観察することで学んだ。

学習内容④：笠原川の水質を知る

笠原川はきれいなのか汚いのかを、笠原川に生息している生物の種類と採取した水のｐＨ、ＣＯＤ、透視度の両方の観点から考えた。



【学習結果】

- ｐＨ　8.0
- 透視度　80
- ＣＯＤ　8
- 採取した水生生物 14 種

オイカワ・カワムツ・アブラハヤ・モツゴ・ニゴイ・フナ類・ドジョウ・カワヨシノボリ・メダカ・ミナミヌマエビ・アメリカザリガニ・スジエビ・コオニヤンマ・コヤマトンボ

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 橋脚の下が非常に深くなっており、子供たちが入らないように注意した。
- 気温が低く、風邪をひかないように上半身まで濡れてしまった子供たちに対し、着替えをするように促した。
- 魚道の役割や護岸の役割を子供たちの理解しやすい言葉で説明した。
- 夢中になって学習に取り組んでおり、川への興味を持ってもらえたと思う。

備　　考	岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：遠藤　栄亮	電話番号（内線）	３２０

様式①　　（恵那土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	恵那市立中野方小学校	担当教員名	中村先生	対象学年・人数	４年生　１１名
実　施　日	７月５日(金)		実施場所	中野方川（中野方ﾀﾞﾑ）	
テ　ー　マ	「ダムの役割を学ぶ」 中野方ダムの役割である治水・利水・維持流量の確保について学ぶ		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　中野方ダムについて知る

中野方ダムのパンフレットを配り、中野方ダムの役割についてイラストと併せて説明を行いダムについての理解を深めた。管理棟にも入り、操作機器の説明を行った。

学習内容②：ダムを“体感”する

ダムの堤体や施設見学を通して、ダム施設の役割や規模の大きさについて体感してもらった。また、近くで見学してもらうことでダムの規模を体感することができた。

学習内容③：管理について学ぶ

ダムの堤体内部にある監査廊を歩いてもらい、ダム内部の施設の役割について説明した。地震発生時は、内部に設置された地震計でダムの異常をいち早く知ることができることなど生徒に説明等を行い、子供たちも興味を示していた。

学習内容④：利水・維持流量について学ぶ

ダムの水を浄水場へ送る送水設備や、下流の中野方川への放流状況を見学してもらい、利水・川の流量維持について理解を深めていた。家庭の水道水はダムに貯めた水を使っていることを見て勉強してもらえました。

【学習結果と考察】

- パンフレットのイラスト通じて、中野方ダム全体の各施設の役割を学んだ
- ダム堤体内や施設周辺を歩き、ダムの規模を体感した
- 各施設や機器を見学し、それぞれの役割について学んだ
- 管理方法を学ぶことで、ダムについての安全性などに対する疑問点を解決することができた

以上のことから、中野方ダムの役割である治水・利水・維持流量の確保について学ぶことができた

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 「子供達の飲み水がどのように自宅まで辿り着くのか」というテーマを学校で設けており、ダム見学から浄水場施設見学を通して子供達に学んでもらう行程を学校側で組んでもらえたので、ダムの役割もよく理解してもらえた。
- 生徒たちは、H23 年 9 月の中野方川災害を経験しており、護岸が被災し、橋が流されたことも知っていた。「もし中野方ダムが無かったら、・・・」中野方ダムの重要性に気付いてくれたのではと思います。

備　　考	

記入者	所属：河川係	氏名：石原　久好	電話番号（内線）	３４７

様式①　　（恵那土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	恵那市立岩邑小学校	担当教員名	西尾先生	対象学年・人数	４年生　４３名
実　施　日	７月１０日（水）、７月１１日(木)		実施場所	岩村川（　矢坪橋上流　）	
テ　ー　マ	「ダム、災害及び河川環境を学ぶ」 ダムの役割及び現在の河川環境を学ぶ。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：　岩村ダムについての役割を学ぶ

岩村ダムについて説明し、実際にダムの堤体や監査廊を見学しダムの役割について学んだ。

学習内容②：水道水の水源を学ぶ

水道水がどこからきているのか説明し、取水位置の見学をした。

学習内容③：土砂災害について（砂防ダムの効果）

土砂災害について、グループに分かれて模型実験を行った。

学習内容④：岩村川の生物から水質を知る

職員が採取した水生生物の種類分けを行い、様々な生物の名称を学ぶとともに、指標生物数を集計し、岩村川の水質について発表してもらった。

【学習結果と考察】

・　生息を確認できたのは、ﾄﾋﾞｹﾗ、ｺｵﾆﾔﾝﾏ、ｶﾜﾆﾅ、ﾐｽﾞﾑｼ、ﾋﾙ、ｻｶﾏｷｶﾞｲ、ｱﾒﾘｶｻﾞﾘｶﾞﾆ、ﾊｸﾞﾛﾄﾝﾎﾞ、ｵﾀﾏｼﾞｬｸｼ、ｱﾌﾞﾗﾊﾔ、ｶﾜﾖｼﾉﾎﾞﾘなど。

少しきたない水に生息するとされる生物が多く採取された。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

・　普段入ることの無いダムの監査廊や管理棟に入り、岩村ダムの大きさや役割を体感してもらえたと思う。
・　最後に川遊びの５カ条を伝えたが、川に対する危険意識を持ちつつ川を楽しんでもらいたい。
・　気温が高く、熱中症が予想されたため、今回は職員により生物を採取した。

備　　考	6 月 28 日(金)　岩邑小学校で事前打ち合わせ 子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 90 頁掲載】 岐阜県自然工法管理士　５人参加

記入者	所属：砂防係	氏名：柴山　真克	電話番号（内線）	３４５

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立宮田小学校	担当教員名	梶屋先生	対象学年・人数	４年生　１０名
実　施　日	７月４日(木)		実施場所		大ヶ洞川（大ヶ洞ダム）
テ　ー　マ	住みよい暮らしをつくる −水はどこから		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：大ヶ洞ダムについて

大ヶ洞ダムがどのような目的で建設され、どのような目的に利用されているかを学ぶことができた。

学習内容②：管理棟の機器説明

ダム管理棟において、ダム管理事務所で何を行っているか、どのような内容を管理しているのか学んだ。

学習内容③：ダムの見学

堤体内に入ったり、ダム周辺を散策することにより大きさを感じることができた。

学習内容④：

【学習結果と考察】

- 生活するうえで必要な水がどのように作られているのかがわかった。
- 水は無限にあるものではなく貴重なものなので、環境に気を付けて大切に使うべきである。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 大ヶ洞ダムの役割や日々ダムにおいてどのようなことが行われているのかを、図を取り入れてわかりやすいように工夫しながら説明した。
- 実際に観測機器を見ながら観測している項目と現在の状況を説明した。
- 堤体内や周辺の見学では、実際に目で見ることにより大きさ等を感じてもらえたと思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立上原小学校	担当教員名	今井先生	対象学年・人数	1、2、3、6 年生２９名
実　施　日	７月１０日(水)		実施場所		輪川（上原小から下流側）
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

輪川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：輪川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な輪川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：輪川の水質を知る

輪川で採取した水生生物の種類と数についてや、輪川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：砂防について

まとまった雨が降ると、谷に集まった雨が土石流となって住宅を襲う。しかし、砂防施設によって守られているということを学んだ。

【学習結果と考察】

- 上原小付近の輪川はきれいな水に棲むナガレトビケラ類やヘビトンボが採取できた。
- 河川近辺に若干ゴミが落ちているが、水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、上原小付近の輪川はとてもきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 図中心の説明により視覚的にも砂防への理解が進んだと期待できる

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立小坂小学校	担当教員名	斎藤先生	対象学年・人数	５年生２４名
実　施　日	７月１１日(木)		実施場所		小坂川(中川原キャンプ場)
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　[環境]　・　[砂防]　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

小坂川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：小坂川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な小坂川にどんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：小坂川の水質を知る

小坂川で採取した水生生物の種類と数についてや、小坂川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：砂防について

まとまった雨が降ると、谷に集まった雨が土石流となって住宅を襲う。しかし、砂防施設によって守られているということを学んだ。

【学習結果と考察】

- 中川原キャンプ場付近の小坂川はきれいな水に棲むカワゲラ類やヒラタカゲロウ類が採取できた。
- 水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、中川原キャンプ場付近の小坂川はとてもきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 図中心の説明により視覚的にも砂防への理解が進んだと期待できる。

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立金山小学校	担当教員名	亀山先生	対象学年・人数	５年生１５名
実　施　日	７月１６日(火)		実施場所		馬瀬川（境橋下流側）
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　[環境]　・　[砂防]　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

馬瀬川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：馬瀬川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な馬瀬川にどんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：馬瀬川の水質を知る

馬瀬川で採取した水生生物の種類と数についてや、馬瀬川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：砂防について

まとまった雨が降ると、谷に集まった雨が土石流となって住宅を襲う。しかし、砂防施設によって守られているということを、模型による実演によって学んだ。

【学習結果と考察】

- 境橋付近の馬瀬川は比較的きれいな水に棲むヒラタドロムシ類やコオニヤンマなどが多く見られ、きれいな水に棲むヤマトビケラも採取できた。
- 水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、境橋付近の馬瀬川はおおよそきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 模型を用いたことにより、砂防というものの理解が進んだと思われる。

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立萩原小学校	担当教員名	池戸先生	対象学年・人数	５年生　９５名
実　施　日	７月１８日(木)		実施場所		桜谷（飛騨川合流部）
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：川の水質を知る

川で採水した水生生物の種類と数についてや、川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：砂防について

まとまった雨が降ると、谷に集まった雨が土石流となって住宅を襲う。しかし、砂防施設によって守られているということを学んだ。

【学習結果と考察】

- 飛騨川との合流部付近の桜谷はきれいな水に棲むカワゲラ類やヒラタカゲロウ類が採取できた。
- 水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、飛騨川との合流部付近の桜谷はとてもきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 図中心の説明により視覚的にも砂防への理解が進んだと期待できる。

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立菅田小学校	担当教員名	田口先生	対象学年・人数	５，６年生１３名
実　施　日	８月２７日(火)		実施場所	菅田川（菅田小前）	
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

菅田川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：菅田川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な菅田川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：菅田川の水質を知る

菅田川で採取した水生生物の種類と数についてや、菅田川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：川の危険性について

まとまった雨が降ると川は恐ろしい場所にもなるということを学んだ。パンフレット等により川の危険箇所や防災情報について学んだ。

【学習結果と考察】

- 菅田小付近の菅田川はきれいな水に棲むサワガニやナガレトビゲラ類が採取できた。
- 水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、菅田小付近の菅田川はとてもきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 川の危険な面や防災情報について注意喚起ができたと思う。

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（下呂土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	下呂市立尾崎小学校	担当教員名	吉田先生	対象学年・人数	４年生　１８名
実　施　日	８月２８日(水)		実施場所		山之口川（位山自然の家）
テ　ー　マ	身近な河川に棲む生き物を採取・調査し、水質状況を知ることにより水質の保全・浄化の重要性を学ぶ。		分　類	治水　・　環境　・　砂防　・　防災	
			連携機関	下呂市環境課	

学習内容①：川とのふれあい方を学ぶ

山之口川に実際に入って、水生生物の採取を行うことで、川の特徴を知るとともに、どんな場所に生物が生息しているかを学ぶことができた。

学習内容②：山之口川の生態を学ぶ

採取した水生生物を種類ごと分け、様々な生物の名称を知るとともに、身近な山之口川に、どんな生き物がどれくらい生息しているかを体感することができた。

学習内容③：山之口川の水質を知る

山之口川で採取した水生生物の種類と数についてや、山之口川の水質がどうだったかについて取りまとめ、結果発表した。

学習内容④：砂防について

まとまった雨が降ると、谷に集まった雨が土石流となって住宅を襲う。しかし、砂防施設によって守られているということを、模型による実演によって学んだ。

【学習結果と考察】

- 位山自然の家付近の山之口川はきれいな水に棲むヒラタカゲロウ類やヘビトンボが採取できた。
- 水生生物の生息状況、川底の見え方や川底の状態、におい等により、位山自然の家付近の山之口川はとてもきれいな状態が保たれていると考えられる。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 自然と触れ合うことにより、子供たちは楽しそうであった。
- 身近な川のきれいさを知り、環境への関心が高まればよいと思う。
- 模型を用いたことにより、砂防というものの理解が進んだと思われる。

備　　考	下呂市環境課　２人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：高木　隆盛	電話番号（内線）	３２２

様式①　　（高山土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	高山市立宮小学校	担当教員名	石原先生	対象学年・人数	５年生　２８名
実　施　日	５月３０日(木)		実施場所	宮川（宮小学校付近）	
テ　ー　マ	カワゲラウォッチング 豪雨時の避難について 土砂災害について		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	飛騨振興局　環境課	

学習内容①：　豪雨時の避難について

豪雨時の避難について説明をし、大雨が降る前に避難することが最善だということを学んだ。

学習内容②：土砂災害について

大雨が降った際の土砂災害発生のメカニズムについて説明し、土砂災害の恐ろしさについて理解を深めた。

学習内容③：宮川の清濁状況について

川の水の臭いや川の水をペットボトルに入れて振ることで宮川の清濁状況の確認を行った。

学習内容④：結果のまとめ

採取した生物の名前を確認し水質調査をパックテストにて行った。

【学習結果と考察】

- 採取された生物より宮川がきれいな水質であることが確認された。
- 午前中の雨のため川が増水しており、小さな昆虫が流されてしまった可能性があり、思うように昆虫採集が進まなかった。
- 豪雨時の避難と土砂災害の危険性について理解を深めることができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 初めてということもあり、紙を見ながらの説明となってしまったため、子供たちが話を聞いてくれたか心配である。
- 土砂災害や砂防えん堤など聞きなれない言葉を説明することに苦労した。
- パックテストにより、川の水と汚濁物を流してしまった時の水で汚濁量の違いを視覚的に見たことでゴミを捨てることの影響を理解してくれたように思う。

備　　考	5 月 30 日(木)朝日新聞(岐阜版)に記事が掲載された。【巻末資料 91 頁掲載】 6 月 1 日(土)岐阜新聞(飛騨版)・中日新聞(飛騨版)に記事が掲載された。【巻末資料 91 頁掲載】。

記入者	所属：河川砂防係	氏名：飯島　悠甲	電話番号（内線）	３８２

様式①　　（高山土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	高山市立南小学校	担当教員名	石端先生 松尾先生	対象学年・人数	４年生　７２名
実　施　日	７月１６日(火)		実施場所		苔川（岡本橋付近）
テ　ー　マ	カワゲラウォッチング 護岸について・土砂災害について		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	飛騨振興局　環境課	

学習内容①：護岸について

なぜ護岸が作られるのか、護岸がない場合はどうなるのか。過去の災害の写真を交え、護岸の必要性について理解を深めた

学習内容②：土砂災害について

大雨が降った際の土砂災害発生のメカニズムについて説明し、土砂災害の恐ろしさについて理解を深めた。

学習内容③：宮川の清濁状況について

川の水の臭いや川の水をペットボトルに入れて振ることで宮川の清濁状況の確認を行った。

学習内容④：結果のまとめ

採取した生物の名前を確認し水質調査をパックテストにて行った。

【学習結果と考察】

- きれいな水から汚い水にすむ生物まで幅広い生態系が確認された。
- 苔川の護岸がなぜつくられているのかという点について、人命が第一であることを理解した。
- 豪雨時の避難と土砂災害の危険性について理解を深めることができた。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 災害時に避難場所を決めている小学生が 4 割程度おり、災害に対する意識の高まりを感じた。
- 身近に護岸が存在しているため、護岸というワードが何を指すのか理解してもらえたように思う。
- パックテストにより、川の水と汚濁物を流してしまった時の水で汚濁量の違いを視覚的に見たことでゴミを捨てることの影響を理解できたように思う。

備　　考	子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 92 頁掲載】 岐阜県自然工法管理士　１人参加

記入者	所属：河川砂防係	氏名：飯島　悠甲	電話番号（内線）	３８２

様式①　　（高山土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	高山市生活環境課	担当市職員	井谷	対象学年・人数	小学生　４２名
実　施　日	８月１９日(月)		実施場所	宮川：国津橋、中橋 二ノ瀬、万人橋 苔川：越後橋	
テ　ー　マ	カワゲラウォッチング 大雨が降った川の状態について		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関	飛騨振興局（環境課）・公衆衛生検査センター	

学習内容①：カワゲラウォッチング

カワゲラウォッチングを行うことで宮川に生息する水生生物について生息場所や多く棲む生物について学んだ。

学習内容②：指標生物と水質調査

採取した生物を実施場所 5 か所について地域ごとに集計し、比較を行った。また川の水について pH、COD のパックテストを行い、宮川・苔川の水質を学んだ。

学習内容③：大雨と避難について学ぶ

大雨が降った際に、山、街ではどんな災害が起こりうるのかについて学んだ。ぎふ川と道のアラームメールにより大雨や洪水といった情報を取得できることについて知った。

【学習結果と考察】

- 宮川の上流から下流まで幅広く調査を行い、地域別に生息する生物が異なることを確認した。上流は水温も低く水が綺麗であることがわかった。
- パックテストによる pH はほぼ中性で COD については 8 以上を示し、あまり綺麗ではないことが確認された。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 幅広く川の水質を調査できたため、地域別の比較ができた。上流、下流の違いを子供たちも感じてくれたように思う。
- 大雨と避難についての話では天気の悪いときは川で遊ばないことを周知できたように思う。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：飯島　悠甲	電話番号（内線）	３８２

様式①　　（古川土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	飛騨市立古川小学校	担当教員名	森腰先生	対象学年・人数	４年生１１７名
実　施　日	６月２８日(金)		実施場所	荒城川（古川小学校付近）	
テ　ー　マ	「身近な河川環境」 カワゲラウォッチングを通し、河川環境の保全について理解を深める。		分　類	治水　・　[環境]　・　砂防　・　[防災]	
			連携機関	飛騨振興局環境課 飛騨市	

学習内容①：荒城川の生態を知る。(カワゲラウォッチング)

カワゲラウォッチングを行い、荒城川に住む生物の採取を行った。採取した指標生物の集計を行い、荒城川の水質について調べた。

学習内容②：川の水質について学ぶ。

荒城川の水を採取し、清涼飲料水を混ぜたものとパックテストにてＣＯＤを比較した。ゴミや生活排水が増えることによってきれいな水が汚れてしまうことを学んだ。

学習内容③：川の危険性について学ぶ。

川と親しむことの楽しさを知ると同時に、川には危険な側面もあるため、川に入る際には子供だけではなく、大人と一緒に入るなど安全に気を付ける必要があることを学んだ。

学習内容④：

【学習結果と考察】

- カワゲラウォッチングの結果、きれいな水に生息するトビケラ類が多数採取された。以上の結果から、荒城川古川小学校付近の水質は良好であると考えられる。
- 清涼飲料水を少量混ぜパックテストを行うと、普段の荒城川の水より、高いＣＯＤ値が出た。現在は良好な水質も、環境への配慮を怠ることで悪化していく可能性があるとわかった。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 身近に豊かな自然があることを児童に認識してもうとともに、環境を守ることの大切さについて知ってもらうことができた。
- 実際に川に入り調査を行うことで、楽しみながら河川環境について学んでもらうことができた。
- 児童に川で遊ぶ際の注意点等について認識してもらうことができた。

備　　考	

記入者	所属：河川砂防係	氏名：谷口　駿介	電話番号（内線）	２６３

様式①　　（古川土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	飛騨市立古川西小学校	担当教員名	野村先生・柿下先生	対象学年・人数	４年生４８名
実　施　日	６月２８日(金)・７月４日(木)		実施場所	宮川（古川西小学校付近）	
テ　ー　マ	「身近な河川環境」 カワゲラウォッチングを通し、河川環境の保全について理解を深める。		分　類	治水　・　[環境]　・　砂防　・　防災	
			連携機関	飛騨振興局環境課 飛騨市	

学習内容①：宮川の生態を知る。（カワゲラウォッチング）

カワゲラウォッチングを行い、宮川に住む生物の採取を行った。指標生物の集計を行うとともに、川の中にどのような生物がいるか学んだ。

学習内容②：川の水質について学ぶ。

採取した宮川の水を使い、清涼飲料水を混ぜたものとパックテストにてＣＯＤを比較した。普段はきれいな水もゴミや生活排水によって汚れてしまうことを学んだ。

学習内容③：宮川の環境について考える。

カワゲラウォッチングにて見つけた生物の集計結果及びパックテストにて学んだことをもとに、わかったことや感じたことについて発表を行った。

学習内容④：川の危険性について学ぶ。

川と親しむことの楽しさを知ると同時に、川には危険な側面もあるため、川に入る際には子供だけではなく大人と一緒に入るなど安全に気を付ける必要があることを学んだ。

【学習結果と考察】

- カワゲラウォッチングの結果、きれいな水に生息するヒゲナガトビケラが多数採取された。
- 清涼飲料水を少量混ぜパックテストを行うと、普段の宮川の水より、高いＣＯＤ値が出た。
- 以上の結果から、「宮川の水はきれいな水である。」、「ジュースなどで水が汚れると、トビケラが少なくなってしまう。」等の意見が出た。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 身近に豊かな自然があることを児童に認識してもうとともに、環境を守ることの大切さについて知ってもらうことができた。
- 現地調査後の結果とりまとめを別途時間をとって行うことで、学習内容に対する理解を深めることができ、児童から多くの意見を聞くことができた。
- 児童に川で遊ぶ際の注意点等について認識してもらうことができた。

備　　考	６月２８日：現地調査　　７月４日：調査結果とりまとめ

記入者	所属：河川砂防係	氏名：谷口　駿介	電話番号（内線）	２６３

様式①　　（古川土木事務所　河川砂防課）

支援学校名	飛騨市立古川西小学校	担当教員名	神出先生・土開先生	対象学年・人数	５年生５８名
実　施　日	１１月６日(水)		実施場所	古川西小学校	
テ　ー　マ	「伝統的防災マップを活用した地域防災教育」 伝統的防災施設（霞堤・輪中堤）について学び、地域防災について理解を深める。		分　類	治水 ・ 環境 ・ 砂防 ・ 防災	
			連携機関		

学習内容①：伝統的防災施設について学ぶ。

伝統的防災施設である、霞堤・輪中堤の仕組みや効果を学んだ。霞堤が小学校のすぐ近くの宮川にもあることを説明した。

学習内容②：実験により霞堤について学ぶ。

霞堤の仕組みを実感してもらうため、模型を用いて実験を行った。霞堤の働きにより、水の到達を遅らせることができ、その間に避難が可能となることを学んだ。

学習内容③：霞堤の重要性について考える。

遊水区域内に住居等を建てることにより、浸水する可能性があることや、霞堤の効果が低減されてしまうことについて学んだ。

学習内容④：

【学習結果と考察】

- 県内に存在する伝統的防災施設として、霞堤および輪中堤について、その仕組みと効果について学んだ。
- 模型を用いた実験により、霞堤がある場合は、ない場合に比べて、川の水位が上がりにくく、住宅地への洪水の到達までに時間が稼げることがわかった。
- 上記の結果を受けて、児童からは「霞堤があることで、避難する時間ができることがわかった。」、「霞堤を守っていきたい。」等の意見が出た。

【土木事務所担当者の所感（当事業の成果等）】

- 伝統的防災施設である霞堤が身近にあることを児童たちに認識してもらうことができた。
- 実験により楽しんで学んでもらうことができた。また、霞堤の効果について肌で感じることができ、水害から身を守るためには、先人の知恵である霞堤を残していくことが必要であると知ってもらうことができた。

備　　考	11 月 7 日(木)中日新聞（飛騨版）にて記事が掲載された。【巻末資料 93 頁掲載】 子ども達から感想の手紙をいただきました。【巻末資料 93 頁掲載】

記入者	所属：河川砂防係	氏名：谷口　駿介	電話番号（内線）	２６３